



社団法人
建設コンサルタンツ協会中部支部
副支部長
田部井伸夫

巻 頭 言

平成17年は、中部国際空港の開港、愛・地球博の開催、東部丘陵線の開通、東海環状自動車道東ルートの開通など、この地域の主要なプロジェクトが一齐に完成・区切りを迎えた年であり、我々建設コンサルタントにとっても感慨深い年でした。

主要プロジェクトの一つである愛・地球博で一般公開された映画「民衆のために生きた土木技術者たち」は卓越した土木技術を駆使して、民衆を救済した3名の土木技術者、青山士、宮本武之輔、八田與一の活躍を描いた作品です。

この中で、特に八田與一の足跡は我々建設コンサルタントの今後の在り方に大きな示唆を与えてくれるものです。

八田與一は1886年に金沢に生まれ、1910年東京帝国大学工科大学土木科を卒業、ただちに台湾に赴任し、各種調査に従事し、さらに嘉南平野の調査、灌漑事業計画に注力しました。当時の嘉南平野は洪水、干ばつ、塩害に苦しめられており、八田は当時東洋最大規模のロックフィルダムである烏山頭ダムを建設し、15万haの広大な嘉南平野に延長1.6万kmの給排水路を張り巡らせ、不毛の大地を一大穀倉地帯に変えました。

八田は戦時中にフィリピンへ向かう途中、アメリカの潜水艦の魚雷攻撃により、船もろともに亡くなり、その後を追って婦人もダム湖へ身を投げて亡くなりました。

しかし、嘉南平野の人々は八田の業績を忘れずに、戦中戦後を通して命日には追悼式を今で

も続けています。また、台湾の中学の教科書「認識台湾」には八田與一の名とその業績が記載されています。

八田の業績の中で、我々が特に注目すべきは、八田がただ単に灌漑土木事業を行ったのではなく、建設後の管理運営施策として3年輪作農法を提唱して、その後関係者の努力で定着させていったこと、また、地域の将来の社会基盤整備に備えて測量学校を開設して人材育成を行ったことです。

つまり、建設した施設を利用して地域の人々が末永く豊かな暮らしをしてゆける仕組みを構築したこと、言い換えれば地域経営を行ったということなのです。

我々を取り巻く社会環境は一般公共投資が年々減少し続けるとともに、三位一体改革による補助金の削減、特別会計の整理統廃合、入札・契約制度の改革、品確法の施行など劇的に変化しており、21世紀の社会資本整備システムへの転換の途上にあるといえます。

多様化する時代の要請の中で、これからの限られた公共投資でエンドユーザーである国民にとって最大の便益を提供する社会資本の整備のためには、土木の原点とも言える八田與一のような広い知識と視野を持った技術者が必要です。

我々コンサルタンツ協会会員も広い視野にたって地域の将来を豊かなものとするべく研鑽していく所存ですのでよろしくお願いします。



社団法人
建設コンサルタンツ協会中部支部
副支部長
市橋博司

巻 頭 言

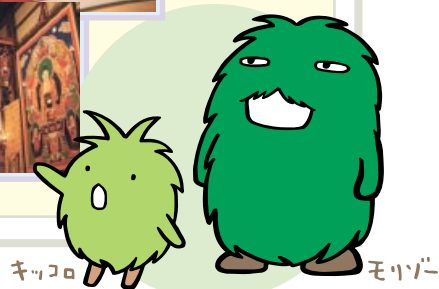
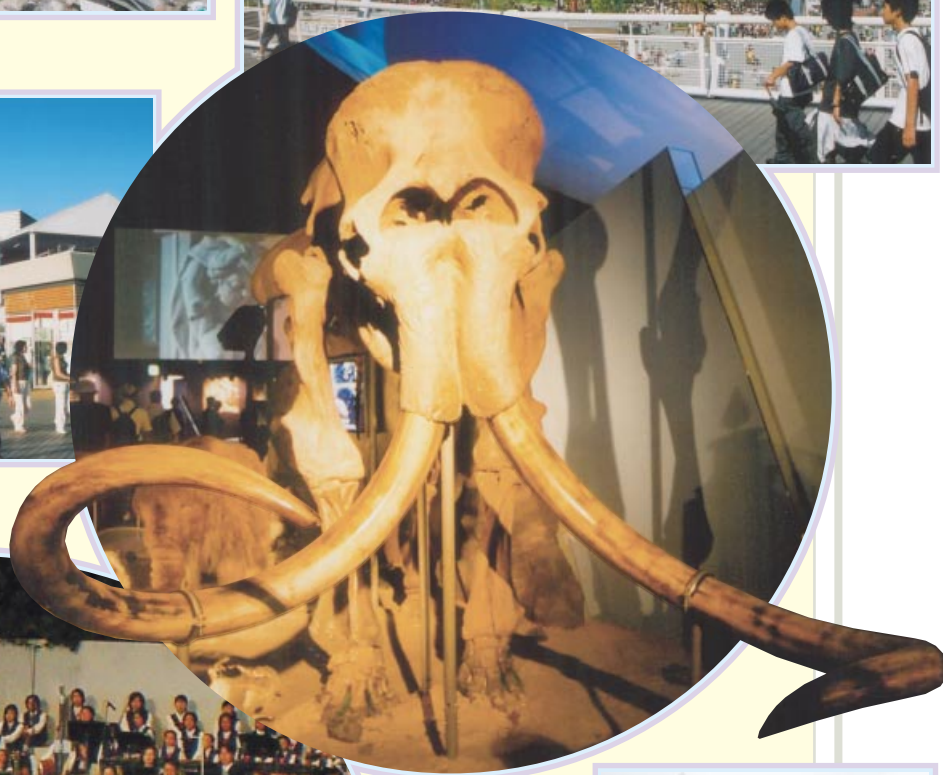
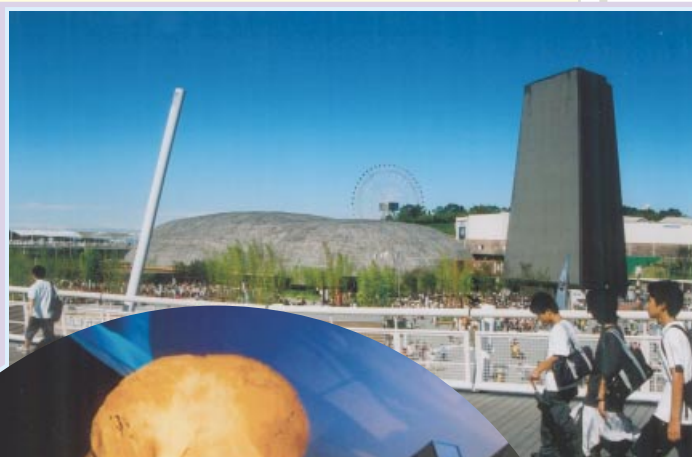
この度、建設コンサルタンツ協会中部支部副支部長に選任をされまして、身の引き締まる思いでございます。以前、当協会活動でお世話になりましたから10数年たっておりますが、その間、併行して岐阜県内主体の地元の協会活動を行ってりましたが、何分井の中の蛙状態で、世の中の大きくて速い動きに疎くなっておりまして、諸先輩方のお力添えを得ながら、当協会の重責を全うしてまいりたいと思っております。

さて、我々の業界を取り巻く環境は、相変わらず先の見えない暗澹たる状況下にあります。特に地方自治体においては、その財政は逼迫しており、三位一体の改革も確たるものが見えず、ことさらに厳しいものがあります。

そのような状況中で、公共工事品質確保法（品確法）や改正独占禁止法が施行されることにより、岐阜県内でもプロポーザル方式での調達が多くなることを見越して、平成16年度と平成17年度に岐阜社会基盤研究所のもとで、「岐阜県の実情にあったプロポーザル方式の研究」を行ってきました。この中部地域においても、従前どおりの価格のみによる入札・契約方式に変わって、それぞれの発注機関で独自の方法によるプロポーザル方式が施行されています。

品確法の精神である経営力と技術力に優れた企業が大いに活躍でき、また参入しやすい発注方式を見出し、協会としてその受注比率を高めてく努力をして行きたいと思っています。

私たちが学んだ「愛・地球博」



キッコロ モリバー

「環境をテーマにした万博から学んだこと」

東洋技研コンサルタント(株)
鎌谷 太郎

「愛・地球博」では、環境をテーマとした数々の取り組みを学びました。直立した壁に色とりどりの花や緑化を行ったバイオ・ラング、燃料を使用しない人力屋根つき3輪自転車タクシー、水素から得た電気で動く燃料電池バス、低消費エネルギーで暑さを和らげるドライミスト、グローバルループやベンチなど様々な箇所で使用されている間伐材などなど、多くの取り組みが見られました。中でも関心を持ったのは、ゴミの分別収集とリサイクルでした。

4年前に、大阪市内から名古屋市内に転勤した頃にも、大阪市内では、回収時のゴミの分別がなく、不燃ゴミ・缶・ペットボトル・生ゴミなど何でも同じ袋に入れて出す習慣が身についていたので、名古屋市の環境への取り組みが進んでいることに感心しました。

今回の愛・地球博では、会場内に設けられたゴミ箱は、9種類の分別回収ボックスからなり、それぞれのゴミ箱には分かりやすい表示があるとともに分別の係員がいて、丁寧にゴミの分別を指導していたのには、リサイクルへの取り組みを万博の場から広めていこうという熱心な姿勢が伝わってきました。

分別収集されたゴミは、さらに17種類に分別されるとともに、不燃ゴミ以外はすべて再利用され、徹底したリサイクルが行われていました。

また、会場内には、日ごろの家庭生活から取り組めることとして、家庭用電気生ゴミ処理機の展示があり、これを機に我が家でも、生ゴミ処理機を購入し、身近にできるエコライフに取り組むことにしました。

生ゴミ処理機のメリットとしては、●生ゴミを大幅(80%以上)に減量できること●減量化した生ゴミは肥料として家庭で再利用ができること●回収日まで生ゴミを家庭内に置くことが無く、悪臭・害虫など衛生面で優れることが挙げられます。逆にデメリットとしては、●初期コストがかかること●電気代がかかることが挙げられますが、初期コストについては、自治体により購入助成金制度があり、現在私が住んでいる兵庫県篠山市では2万円の助成金がありました。電気代については、ゴミの量にもよりますが近年の省エネ技術により思ったほどかからないようです。

使ってみると、毎日出る生ゴミが小さく分解され、ゴミの量が減り、暑い夏でも臭いが気になりませんでした。

ゴミを出す回数が減るのはもちろん、家庭でリサイクルの意識が高まったことは、大きな成果だったと思います。

愛・地球博で目にした環境を大切にすることを、まず一つでも、自分たちでできることから取り組み、それを二つ、三つと増やしていけたら、地球は少しずつ元気を取り戻してくれるのではないのでしょうか。

一人の一つが大勢のたくさんになったら、生き生きとした地球に安心して暮らせる日々が得られると思います。



バイオ・ラング前で撮影



我が家で活躍する生ゴミ処理機

「万博を振り返って」

中部復建(株)
成瀬 美夫

愛知万博も約22000万人の入場者を迎え無事に終えました。自然の叡智をテーマに半年間開催され来場された方々に数々の思い出を残された事だと思います。私も今回の万博で感じたことがいくつかあります。

・閉幕後、あるテレビ番組で、「万博のサブテーマはなんだったのでしょうか?」と言う問題がありました。すぐに思い浮かびますか?「えー、何だったかな?」と言う状態でした。「宇宙、生命と情報」「人生の“わざ”と知恵」「循環型社会」の3つがサブテーマです。会場マップにも載っていましたが、以外に知らない人が多かったようでした。もうひとつサブテーマが有ったのをご存知でしょうか?正確では有りませんが、「ロボットなどの最新技術」「リサイクル社会の推進」「NPOの参加」「120ヶ国の参加」私は、表のサブテーマよりこちらの方がより解り易く好きです。私的にも、最先端の技術・リサイクル・多くの人の協力・多数の国の参加が明確に現れ非常に良い万博だったと思います。テーマどうりの事が来場された方に少しでも伝わった事でしょうか?

・報道では、収支決算は黒字で終わったようで県民としては大変喜んでいました。愛知県が万博開催を誘致していた頃、知り合いの役所の方が「万博を行なうと、赤字になり県の財政が非常にきつくなり開催後県が赤字財政で苦しまなければならないので、中止になったほうが良い」と聞かされた事がありました。最終黒字との報道で安心しました。これも実際に手を動かしていた方々の、採算を度外視した手弁当による多くの人達の協力の結果だと思っています。

・有名な建築家が各国の独創的なパビリオンの設計を行い建設された物と違い多くのパビリオンが。モジュール18m×18m×9mのユニット化された建物を使用しており、予定どうり3Rシステム(リデュース、リユース、リサイクル)の形で建物が再生されるようで、大変喜ばしいことです。又、同時に使用された色々な物も他の場所で使用される様なので、今後思わぬ処で見る機会がおとずれた時は、万博を懐かしく思う事と思います。

・今でも釈然としない事もあります。これは、歳を取った両親を連れて行った時でしたが、目的場所すぐ近くに道があるのに通してもらえなかった事です。警備上の関係だと思いますが、目的場所に行くのにそこを通れば2〜3分で目的地に行くことが出来るのに、大回りをして15分も掛け目的地へ行かなければならなかった事です。歳を召した方、車椅子の方などハンデキャップ者は対象外で、他の人が対象であれば納得しますが、全ての人が対象のようでしたが、会場関係者では無いような方が警備員になにやら声を掛けるとその人は通る事が出来るようで、仮に会場関係者でもやはり大回りすべき事ではと、非常に嫌な思いをしました。

まだ、色々感じた事は多数ありますが、訪れた人は、嬉しさ・悲しさ・勉強に成った事等、色々な思いを持った事と思います。これらのことが、今後の良い思い出となればと思います。



「愛知万博による意識改革」

日本工営(株)
森田 裕子

2005年9月25日、モリゾーとキッコロは海上の森へ帰り2005年日本国際博覧会（愛知万博）は幕を閉じました。この愛知万博は、開幕前から連日のように新聞やテレビを賑わせており、会期中は予想を大幅に上回る2,200万人を超えるお客様を迎え、多くの人に夢、出会い、そして感動を与えました。



晴天に恵まれた閉幕

私は、愛知万博の事業主体である(財)2005年日本国際博覧会協会に2年間出向し、環境グループ環境計画チームに所属していました。担当は主にゼロエミッションでした。具体的には、会場内から発生する廃棄物について、その量の想定、3R方策(Reduce、Reuse、Recycle)の検討、また分別種の設定、再資源化・処理計画の立案といった業務です。

愛知万博は、メインテーマに『自然の叡智』を、サブテーマのひとつに『循環型社会』を掲げ、会場建設、会場間・会場内輸送、新エネルギーシステムなどのハード面、また多種類の廃棄物の分別、万博エコツアー、EXPOエコマネーといったソフト面の取り組みを組み合わせ、お客様の環境に対する意識が向上するような仕組みを随所に取り入れていました。

私は、愛知万博の仕事に関わるまで環境に対する意識は決して高いものではありませんでした。これまで、地球温暖化やオゾン層の破壊、森林の減少、ごみ問題など環境問題というものは、地球規模の大きな問題で、一個人の力ではどうにもならず、これからの環境技術の開発という大きな力によって解決されていくものだろうと考えていました。しかし、この愛知万博に関わり、有識者、NPO団体、環境関連企業など多方面の方々の意見を聞き、それを自分自身の仕事に反映させていくことを通じて、循環型社会の構築に必要な要素は先進的な環境技術だけでなく、一人ひとりの環境に対する意識の改革や行動が不可欠であるということに気づくことができました。

開幕以降会場内では、日を重ねるごとに万博エコツアーへ参加している人の姿、9種類のごみ箱の前で悩みながらもきちんと分別している姿、EXPOエコマネーに興味を示している姿などを目の当たりにすることが多くなり、環境に対する意識の変化を感じることができました。また、博覧会協会がお客様を対象に行った会場内での環境配慮に関するアンケート調査結果を見ると、愛知万博を訪れる前より環境に対する意識が高くなっていることがわかりました。

私は、この愛知万博に仕事として関わったこと、また環境に配慮している多くの方の姿を見ることができたことにより、改めて身近なところから環境に配慮する第一歩を踏み出すことの重要性を学びました。ごみの分別や節水、節電など一つひとつは小さな取り組みでも、多くの人が取り組み、そして持続させることが、これからの循環型社会の構築という目標に繋がるものと信じています。

愛知万博による経済効果は、シンクタンクの試算によると1兆2,800億円に上るとされています。閉幕後のこれからは、愛知、日本、そして世界の多くの国で、環境に対する意識が向上し、多くの人が行動していくという『愛知万博効果』があらわれることを期待して、私自身が一層の環境配慮を心がけていきたいと思っています。



閉幕最後の一枚

「万博から学ぶ」

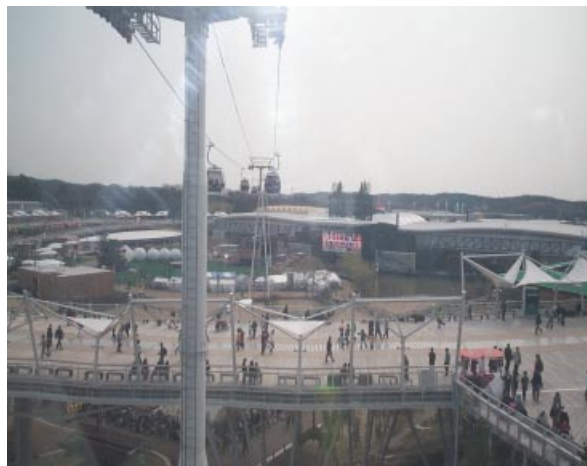
大同コンサルタント(株)
川瀬 雅貴

愛・地球博が開幕して185日間、あっという間に閉幕してしまいました。開催会場にも2度しか足を運ぶことが出来ませんでしたが開催期間中、多くの事を感じ、学ぶ事が出来ました。

一番、強く感じた事は、時代が大きく変化しつつあることを感じました。今までの様な科学・技術の進歩、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代から「環境」を基本・原点とした循環型社会、自然共生、環境負荷低減型産業・技術の時代へ変化する大きなポイントに愛・地球博が為るように思います。

特に、環境問題に関しては、会場の計画・整備・運営段階で3Rシステム（リデュース・リユース・リサイクル）の活用、CO₂排出削減、新エネルギーの活用、環境方針の策定など地球環境問題へ対応した取り組み（実証モデル）が数多くありました。中でも、ゴミの分別、太陽光発電、大規模緑化壁などは会場を訪れた時、子供達に「環境」について説明しやすい題材になりました。

環境問題は我が国だけでなく地球規模の問題で、日本だけでなく世界中で起きている大規模災害も自然環境の破壊が大きな原因だと思います、自然の猛威には人間は非常に無力です、自然と安心して共生していく為に、「自然・生命」の原点である土、水、太陽について原点回起して、大切に愛していく事が必要だと思います。そして、現代の最先端技術やITを活用していけば、明るい未来（地球環境）が見えてくる様に思います。



今回の博覧会は、計画段階から地域住民と対話し、開催中も地球市民村やボランティア活動、市民パビリオンなど市民参加を積極的に取り入れた試みがあり、又、地球博が開催されることで周辺道路が整備され、広くは中部地区の交通網が非常に良くなりました。他にも国際空港の開港もあり、愛・地球博の開催が中部地域に与えた経済効果は非常に多くなるものだと思います。環境以外の分野でも興味深い学べる事が多くありました。



環境問題、道路整備、市民参加、最先端技術など、今後の建設コンサルタント業でも、愛・地球博は沢山の学ぶべき題材、成果がありました。

そして、自分も、愛・地球博で学んだ事を、未来の子供達の為に活かして生きたいと思いました。

「万博から学ぶ」

中日本建設コンサルタント(株)
渥美 勉

寒いのはかなわん・・・梅雨時は遠慮しておこう・・・夏休み中は混むなあ・・・暑いのは苦手だしな・・・などと様々な理由をつけて伸ばし伸ばししてきましたが、残り2週間余に迫った9月9日、やっと重い腰を上げました。

午後2時頃から空き始めるという噂を聞きつけ、午後3時頃に入場しましたが、会期末が迫っているせいか空いているという感じは全く無く、パビリオンは勿論のことレストランやトイレまで長蛇の列といった有様です。とかく残り僅かになると殺到したがる気質は日本人特有のものでしょうか？(ちなみに、入場者数は196千人、全会期中18番目の混雑だったようです)

巨大万華鏡で人気の「大地の塔」の一角から白い煙が噴き出しているので一瞬火事かと思いましたが、その正体はドライミストでした。真夏の熱中症対策として導入されたもので、竹の植え込みや、グローバループの天井(写真1)からも噴き出していました。今日は幸いにしてさほど暑くなく、効果は実感できませんでしたが、打ち水と同様に省エネルギーによる大気温の低下に効果的であると思いました。



写真1 ドライミスト

愛・地球博のテーマは環境ということで、会場全体が環境を意識した飾り付けとなっており、幾つかのパビリオンでは植樹をしたり人工の滝や噴水などで自然を演出していましたが、どうしても物産展・観光案内というイメージの方が強く感じられました。

中には、物産展に徹したパビリオンもあり、私としてはこちらの方が楽しむことができました。モロッコ館もその一つです。アラベスク透かしの彫金壁が妖しく煌くモスク風の室内にはボブリの香りがほのかに漂い、部屋の片隅では彫金士が指輪に繊細な模様を刻んでいます(写真2)。

オープンカフェに見立てたテーブルでのコーヒーは、味の方はともかくとして、異国情緒をたっぷり味わうことができました。



写真2 モロッコ館

万博も終わり、これから会場の撤収作業が始まりますが、各パビリオンでは撤収時の環境も考慮した構造・材料を使用しており、今後の万博をはじめとした各種イベントのあり方を強く方向付けるものになりそうです。

撤収作業の中で最も環境負荷が少なく効率が良いのは、パビリオンなど各種施設を譲渡することですね。

既に、死海の海水は岡崎の高校へ、英国館の「森のガーデン」が豊田市に、アメリカ館の「ライト兄弟のグライダー」をセントレアに譲渡することが決まっており、その他愛知県館やモリゾーゴンドラにも譲渡の手が上がっています。

しかし究極の撤収は、備品などのバーゲンセールですね。本国への送料が不要でしかも省エネ(買う方は大変なエネルギーを消費したとか)・・・綺麗に片付いたようです。

半年に及ぶ会期中大きな事故もなく、22百万人の人々が万博を満喫することができました。万博協会のご努力に敬意を表するとともに、縁の下で支えた大勢のボランティアの方々に大きな大きな拍手を送ります。ほんとうにご苦労様でした。

「環境博から学んだこと」

(株)創建
加藤 開

2005年9月25日、愛知万博閉幕。あっという間に過ぎた半年間であった。

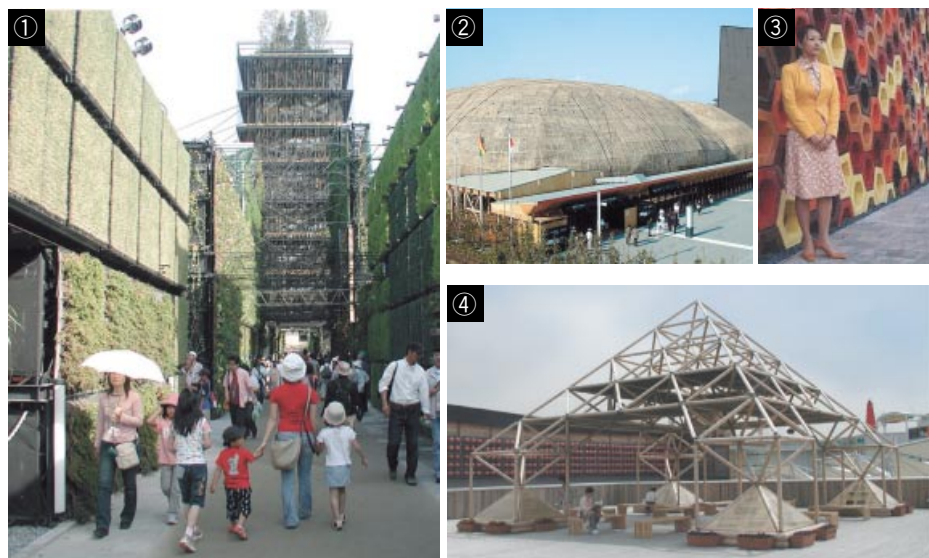
「自然の叡智」をテーマとした愛知万博は、会場計画、各パビリオンの建築、会場運営などにおいて環境負荷の低減のための様々なアイデアが盛り込まれている。一技術者としては、開催した半年間のみで判断するのではなく、計画・整備段階から施設撤去・跡地利用までの広い視点でこの愛知万博を考えてみたい。

会場となった愛知県青少年公園は、起伏のある自然豊かな丘陵地であるがゆえに、万博会場として整備するには多くの課題があった。極力地形の改変をせずバリアフリールートを確認した回廊グローバルループは、環境博を象徴する施設であるといえる。回廊のルートは、希少種生息エリアを避け、何度もスタディを重ねて設定されている。回廊を支える扇型に並んだ柱は、地形改変を最小限に抑えるとともにリサイクルにも配慮されている。また会場内のアクセス性の向上や非日常的空間の演出も図られている。

グローバルハウスの外壁を緑で演出したバイオラングは、最新の垂直緑化技術が集結し、温熱環境の改善効果などのデータも蓄積しており、今後に生かすための実験装置でもある。ヒートアイランド現象の緩和など、高密度な都市空間における環境負荷低減装置として期待を集めるものである。

会場内のパビリオンにおいても様々な環境技術を見ることができる。リサイクル材、環境資材がいたるところに活用されており、また、撤去・解体作業を容易にする仕組み、リユース・リサイクルに配慮した施設計画がなされている。また外国館においては、モジュール化された上に共通ルールまで設定されたが、各国様々な工夫でデザインされていた。

一技術者として、愛知万博を通じて様々なことを学んだ。その根幹となるのは「環境と人へ配慮する心」であると思う。業務のみでなく、日常生活においても常に環境を意識しながら、ひとりひとりが行動を起こすことが大切なのである。9月25日に閉幕したが、環境博としての愛知万博はまだ続いている。施設が撤去され、リユース・リサイクルされ、万博会場跡地が有効に利用されてはじめて次に引き継がれていくものだと考える。



- ① 巨大な垂直緑化壁バイオラングは、都市緑化の新たな可能性を示す。
- ② 徹底して環境資材を使用した長久手日本館。再利用・リサイクルにも徹底している。
- ③ 一定のルール下でも洗練されたデザインのスペイン館。外壁のリサイクルも実現して欲しい。
- ④ デッキ、壁、休憩所、ベンチなど、間伐材で囲まれた憩いの空間。木材は最も身近な環境資材である。

「打ち水大作戦に参加して」

中日本建設コンサルタント(株)
岩村 英樹

3月25日に開催された愛知万博も終盤に差し掛かり連日10万人を超える賑わいをみせている。愛知万博は「環境博」といわれる程環境問題に配慮して行われているが、私自身来客者が「環境博」というイメージを持っている訳ではなく、「環境博」というよりはむしろ「技術博」というイメージを持っているのではないかという気がしていた。そういった中、8月30日に「打ち水大作戦」というイベントが愛知万博会場内の愛・地球広場で行われた。これは地球温暖化を和らげるために一昨年から行われている運動で、単純に二次利用水をまいて地球の気温を2℃下げようとするものである。そしてこのイベントに私自身スタッフとして参加させていただくこととなった。

当日はあいにく曇りであり気温はあまり高くなかったが、湿度が高く蒸し暑いという感じの日であった。待ち合わせの北ゲートに集まり団体入り口から会場に入り愛・地球広場へと向かった。広場でスタッフの方から説明を受け開始時間まで各班に分かれて準備をしながら開始を待つこととなった。

午後一時になり今にも雨が降り出してきそうな天気だったが「打ち水大作戦」は決行された。参加者は約2,500人。これはたまたま会場に来ていてなんとなく参加した方、水遊びをしにきたお子さん、スタッフの説明を受け参加しようと思った方、また、環境問題に関心を持ち少しでも貢献しようとしている方など様々だった。



写真1 打ち水の準備



写真2 スタッフの皆さん

結果は会場のスクリーンにサーモ画像として映し出され、広場全体で約1.2℃下がるなど打ち水の効果が映し出されていた。この結果を受け、会場が人工芝でなくアスファルトだったり、天候が晴天だった場合などのような結果が出るのか私自身すごく楽しみになった。また、「打ち水大作戦」は全国さまざまな場所で行われているが、そういった中で今回愛知万博で行われている機会に参加でき非常にうれしく思えた。

最後にこの文章が掲載されるころには愛知万博も閉幕していると思いますが、今回「打ち水大作戦」が行われたことを機に、10年後、20年後に地球の気温が2℃下がり、この運動の「打ち上げ」などにスタッフとして参加していることを願う思いです。

「万博から学んだこと」

東アジア環境情報発信所
廣瀬 稔也

9月の1ヶ月間、長久手会場・遊びと参加のゾーンにある「地球市民村」で出展者として小さなパビリオンを運営した。「日中韓・環境見聞館」と題したこのパビリオンでは、日本と中国、韓国にまつわるさまざまな環境問題をクイズ形式で伝えた。

特に苦労したのは、越境漂着ごみの解説。中国や韓国から出されたごみの一部は、川に流れ出て、海流に乗って日本まで運ばれてくる。対馬をはじめとする日本海側の海岸では、そうした海外からの漂着ごみ対策に悩まされている。

このことをいかにうまく伝えるか。日本側の状況だけを鑑みれば、日本だけが被害を受けているように思われる。だが実際は、日本のごみも、はるか遠く、アラスカやミッドウェー諸島にまで運ばれている。また、自分たちの出したごみが他国の海岸を汚しているのが申し訳ないと、釜山の学生たちが毎年長崎県対馬市にごみを拾いにやってくることも、問題とあわせて伝えなければいけない。



万博というお祭りの場で、深刻な環境問題をいかに伝えるか。時間的な制約もあり、当パビリオンにどんなことを期待しているか、何を持ち帰っていただきたいかを考えながらの説明は、非常に苦労もあったが、「今まで知らなかった」「私にもできることはありますか?」と概ね好意的な反応をいただけたのは、何よりの励みになった。

一方で、パビリオンを訪れて下さった地元の男性から「最近来たばかりのよそ者が、知ったふりして森を守ろうなんて、何を言っているんだ」といったような発言をいただいたときは、心に響いた。私たちパビリオン運営者は、責任を持ってここ(長久手町)に暮らしていく人間ではない。万博が終わった後も、彼はこの地の変化を見つめ、その変化とともに暮らしていかなければならない。「よそ者」としての自分が、ある場所に生きる当事者に対してどのような姿勢で関わっていけるのか、今後の仕事の中でも常に問いたい部分である。

うれしかったのは、年配の来場者が残ってくださった言葉。「仕事をしていた時に自然を傷つけていた分、定年後は自然のために働こうと思ひまして……」。過去の行いを反省し、より望ましい行動をとるべく、自分の生き方を見直すのに、遅すぎるということはないのだと改めて思った。

地球市民村に出展し、来場者の方がたとのふれあいを通して、環境への思いや私たちの活動に対するメッセージをたくさんいただいた。パビリオン運営を終えた私たちに今問われているのは、“万博後”だ。地球市民村のテーマの1つは「ここからはじまる自分」。万博からなにを得たかをよく振り返り、ぜひそれを、新たな一步を踏み出すきっかけとしたい。

第15回 建設コンサルタント業務技術発表会

建設コンサルタンツ協会中部主催による「第15回建設コンサルタント業務技術発表会」が去る平成17年10月5日(水)愛知厚生年金会館(鳳凰の間)にて開催されました。この業務技術発表会は建設コンサルタント業務に関する技術者の技術力向上と、建設コンサルタント業界の発展・活性化を目的として毎年開催されています。本年は、第1会場にて、河川及び構造土質部門、第2会場にて道路及び都市計画部門の発表会となりました。

当日は会員各社から100名を越える出席者があり、発表は建設コンサルタンツ協会中部支部石井晃一支部長の開会あいさつと国土交通省中部地方整備局中部技術事務所小川伸吉技術課長の講演に続いて行なわれました。どの作品も論文内容、プレゼンテーション共にレベルが高く、質疑応答も活発に行なわれるなど盛況裡に終わりました。本年の業務技術発表会には次の16編の応募がありました。



■発表論文と発表者(発表順、敬称略)

第1会場(河川、構造土質)

- (1)「波返し付き傾斜護岸の越波流量特性に関する実験的研究」 ————— 玉野総合コンサルタント(株)
森川 高德
- (2)「河床波動解析を用いた貯水池における堆砂対策の検討」 ————— 中央コンサルタンツ(株)
上村 高大
- (3)「土砂災害周知活動におけるワークショップの有効性と課題」 ————— 玉野総合コンサルタント(株)
松原 玲
- (4)「砂防ソイルセメントの堰堤基礎への適用について」 ————— 八千代エンジニアリング(株)
福島 淳一
- (5)「海岸保全施設の情報整備手法に関する考察」 ————— パシフィックコンサルタンツ(株)
佐々木信和
- (6)「ステンレス型鋼補剛による木製吊り橋の設計」 ————— (株)エイトコンサルタント
磯部 英二
- (7)「支障物件が隣接するRCラーメン橋の耐震補強設計」 ————— パシフィックコンサルタンツ(株)
松浦 功
- (8)「単純桁橋の上部工連続化」 ————— 日本技術開発(株)
高木 信治
- (9)「火災を受けた橋梁の被災状況調査」 ————— 中日本建設コンサルタント(株)
鵜飼 昭雄

第2会場（道路、都市計画）

- (1)「特殊条件下におけるデザイン設計事例」 ————— 大日コンサルタント(株)
野網 義也
- (2)「住民参加による歴史のみちづくり計画」 ————— 中央コンサルタンツ(株)
江口 貴弘
- (3)「最近の空港アスファルト舗装の損傷と改良工法について」 ————— 日本工営(株)
浜 昌志
- (4)「高分解能衛星データによる農山村環境情報の新たな整備手法の提案」 ————— 大日コンサルタント(株)
若原雄一郎
- (5)「東海豪雨の被災地における住民参加のまちづくり計画」 ————— 中央コンサルタンツ(株)
桑嶋 博史
- (6)「土地区画整理事業における借家人対応」 ————— 玉野総合コンサルタント(株)
古市 博之
- (7)「可搬式ナンバープレート観測装置による交通流動解析」 ————— (株)オリエンタルコンサルタンツ
尾高 慎二



発表作品の中から最優秀賞2編、優秀賞（論文部門）3編、優秀賞（発表部門）2編の計7編が表彰されました。各表彰作品は下記の通りです。尚、最優秀作品は本号及び次号の図夢in中部に掲載いたします。

最 優 秀 賞

河床波動解析を用いた貯水池における堆砂対策の検討
土地区画整理事業における借家人対応

優 秀 賞（論文部門）

波返し付き傾斜護岸の越波流量特性に関する実験的研究
高分解能衛星データによる農山村環境情報の新たな整備手法の提案
可搬式ナンバープレート観測装置による交通流動解析

優 秀 賞（発表部門）

海岸保全施設の情報整備手法に関する考察
東海豪雨の被災地における住民参加のまちづくり計画

——— 本号の掲載は、下記作品とさせていただきます。 ———

■最優秀賞

土地区画整理事業における借家人対応

玉野総合コンサルタント(株) 古市 博之



土地区画整理事業における 借家人対応



玉野総合コンサルタント(株) 古市 博之

借家人は土地区画整理事業の中で権利者として定められていないことから、借家人対応が事前の方針立てて行われることは少なかったが、既成市街地での土地区画整理事業においては借家人の生活再建についても対応が必要となる。借家人対応の事例に基づく問題点・課題の整理により、計画的な借家人対応を行う効果として「事業期間の短縮」「土地の流動化の促進」が挙げられる。借家人対応は、義務として捉えるのではなく、総合的なまちづくりを実現するための重要な施策として捉え、計画的かつ積極的な取り組みが望まれる。

Key Words : 借家人、生活再建、事業期間短縮、土地の流動化

1 はじめに

近年の土地区画整理事業は、新市街地での事業から既成市街地での事業へとシフトしてきている。既成市街地で実施される土地区画整理事業では、権利関係が複雑な場合が多く、土地所有者への対応のみでなく、そこに居住する住民、すなわち借家人の生活再建についても対応が必要となる。

借家権について土地区画整理事業の中で権利が定められていないことから、これまで、借家人対応が事前の方針立てて行われることは少なかった。しかし、昨今の傾向から借家

人への対応如何によっては、事業の進捗に影響を与えかねない状況にある。

そこで、借家人対応の事例を基に問題点・課題を整理し、今後の土地区画整理事業における借家人対応の開始時期・留意点等を提示するとともに、計画的な借家人対応による事業効果について述べることとする。

2 借家人対応に関する課題

これまでの土地区画整理事業における一般的な借家人対応は、図-1のように移転交渉時に転居先について家主と借家人が直接交渉する等、民々に任されている場合が多い。

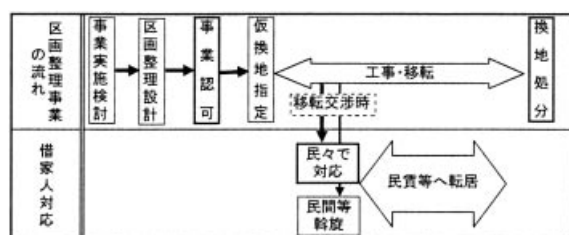


図-1 一般的な地区の借家人対応

一方で、施行者が全く借家人対応を実施していないわけではなく、表-1のように移転交渉時において市営住宅等の斡旋や、不動産（賃貸住宅）情報の提供を行っている事例がある。その場合においても、事業認可前や換地

設計時に借家人の受け皿住宅等の必要戸数を検討するなど、計画的に準備している事は少なく、移転交渉時に借家人の存在が課題となり、その対応を図っている状況である。また、対象は高齢者等の転居先を探すことに困窮すると考えられる人達に限られている場合が多い。

これまでの土地区画整理事業では、移転補償交渉時に初めて借家人の有無及び意向等を確認することから、場当たり的な対応となっている。また、借家人もその時点で初めて移転をしなくてはならない事について認識する場合が多いため、転居先を決めるのに時間が掛かる。これらの要因により、移転交渉が長引き、事業の長期化や、施工計画の見直しが必要になる等の問題が発生している。表-1に示した地区でも、仮換地指定以降の事業期間が、15年以上となっている。

項目		地区A	地区B
地区の概況	地区特性	駅前の既成市街地(減価地区)	駅前の既成市街地(減価地区)
	地区面積(ha)	約60ha	約20ha
	全体事業期間(仮換地指定後)	23年(19年)	20年(16年)
	区画整理事業費	約396億円	約248億円
	減歩率(減価買取後)	23.77%(20.00%)	24.61%(19.69%)
	所有権者数(借地権者数)	734(0)	354(45)
	借家(戸)	191	全体数を把握していない
	要移転戸数/建築物戸数(移転率)	719/783(93%)	350/396(89%)
	施工状況	H9仮換地指定	H6仮換地指定
	対応開始時期	移転補償交渉時	移転補償交渉時
借家人への対応	対応内容	高齢者等必要な場合のみ市営住宅等を斡旋、情報提供	高齢者等必要な場合のみ市営住宅等を斡旋、情報提供
	意向調査	実施していない	実施していない
	借家人の転居先動向	把握していない	把握していない

表-1 一般的な借家人対応地区の事例

3 計画的な借家人対応の事例

一方で、計画的に借家人対応策を検討し、実施している地区もみられる。そのような地区の事例として次の2つの地区(表-2)を紹介する。

(1) 地区外にコミュニティ住宅を建設した地区(地区C)

地区Cは、借家人対応として密集住宅市街地整備促進事業(以下、密集事業という。)によりコミュニティ住宅を建

なお、地区Aでは、借家人が少ない地域で早期に移転交渉が完了し、借家人の多い地域では移転交渉に時間が掛かっており、移転交渉が完了した地域から公共施設の整備を実施したことにより、整備範囲が分断された虫食いの工事实施となり、整備効果を早期に実現できない状況が生じている。

地区Bにおいても、事業を早期に完了させるため集団移転等も検討されたが、借家人の所得状況が異なることから、所得に応じた転居先を同時期に探すことができず、一団での転居が困難となり、玉突き移転で事業を進めざるを得ない状況となっている。

このように、計画的な借家人対応が実施されていない地区においては、事業推進の阻害や、事業の長期化および事業効果の早期実現の阻害等の課題が生じている。

設し(現在、コミュニティ住宅の建設は「住宅市街地整備総合支援事業」に統合されている。)、借家人の受け皿住宅を確保している。

借家人への対応は、以下のような流れに基づき計画的に実施されている。

土地区画整理事業の認可前(区画整理事業調査後)に事業実施に際しての課題を検討した結果、借家人の転

項目		地区C	地区D
地区の概況	地区特性	駅前の既成市街地(減価地区)	駅前の既成市街地(減価地区)
	地区面積(ha)	約30ha	約15ha
	全体事業期間(仮換地指定後)	12年(8年)	16年(12年)
	総事業費(億円) 区画整理事業+合併他事業	340+83=423	151+54=205
	減歩率(減価買取後)	26.77%(21.03%)	26.40%(18.36%)
	所有権者数(借地権者数)	876(22)	206(160)
	借家(戸)	450	290
	要移転戸数/建築物戸数(移転率)	760/776(98%)	437/640(68%)
	施工状況	H12仮換地指定	H10仮換地指定
	検討開始時期	区画整理事業調査後	都市計画決定前
借家人への対応	対応策の内容	地区に隣接する市所有地を活用し、密集事業でコミュニティ住宅を建設	密集事業で建設用地を確保し、地区内及び地区外にコミュニティ住宅を建設
	施工状況	H12仮換地指定	H10仮換地指定
	時期	土地区画整理事業事業計画策定時	土地区画整理事業の都市計画決定時
	意向調査	内容	まちづくりアンケート コミュニティ住宅入居希望意向調査
	他事業導入	時期	区画整理事業認可と同時期
	内容	密集事業	密集事業
	コミ住	地区外91戸	地区内58戸 地区外63戸
	公営住宅	地区内74戸	}169戸
	民間	民間斡旋100戸 民々に任せた185戸	

表-2 借家人対応を計画的に行っている地区の事例

居先の確保が必要であるとされ、対応策として密集事業が導入された。そして、事業認可までに借家人を含む関係権利者に対して意向調査を実施し、コミュニティ住宅の必要戸数が検討された。その後、土地区画整理事業と密集事業の2つの事業を効果的・効率的に実施するため、事業認可が同時期になるよう、認可手続きが進められた。事業認可を同時期にすることで、双方の資金を想定した事業計画・資金計画の立案が可能となり、施行者の事業費負担を軽減することができている。

事業の役割分担としては、コミュニティ住宅の建設及び土地区画整理事業の補助対象とならない老朽建築物の移転(除却)を密集事業で行い、それ以外の整備を土地区画整理事業で行っている。

コミュニティ住宅の建設用地は地区外の既存の市有地(未利用地)を活用して整備されている。

地区外にコミュニティ住宅用地を確保したことで、土地区画整理事業の工事(移転)開始前に建設ができ、借家人の転居先を事前に確保できている。そのため、工事施工状況に応じた移転が可能となり、移転の遅延による遅れが生じることなく工事が進められた。

また、借家人の約4割ほどを公共による受け皿住宅で対応したことにより、転居先を探す等の借家人対応に掛かる時間を短縮でき、事業を円滑に進めることができている。

(2) コミュニティ住宅を地区周辺と地区内に建設した地区(地区D)

地区Dは、地区Cと同様に密集事業を導入した地区であるが、地区内にもコミュニティ住宅を建設した点が異なっている。

地区Dは図-2のような長屋住宅が多く、居住者(借家人等)も高齢者の割合が高いことから、居住者の意識調査で地区内もしくは地区周辺に居住したいという希望が多くみられた。このような居住者の要望に対応するため、図-3のようなコミュニティ住宅を地区内と地区周辺に建設している。これにより、従前居住地の近くで生活再建が可能となり、既存のコミュニティの維持が可能となっている。

地区内コミュニティ住宅の建設用地は、売却希望者の宅地を買収し、集約換地によりそれらの土地を一箇所にまとめることにより確保している。また、買収対象の土地を主に過小な宅地としたことで、事業後に狭小な宅地が残ることが少なく、過小宅地対策も同時に解決する事ができている。



図-2 従前の長屋住宅(地区D)



図-3 コミュニティ住宅(地区D)

一方、既成市街地で未利用地が少ないことから、減価買収・コミュニティ住宅用地・減歩率緩和等、事前に買収が必要と考えられていた用地全てを確保する事が困難となり、立体換地手法を導入し、減価買収の不足分に対応している。立体換地ビルには借家人の存していた土地の換地もあり、地主の土地活用方策のひとつとなっている。

このように、地区Cや地区Dでは事業を円滑に進めるため、図-4のような流れに基づき、計画的に借家人対応を行っている。

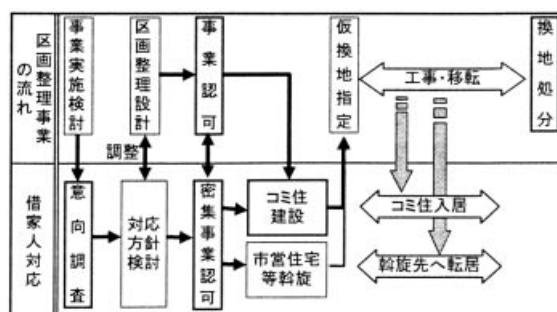


図-4 計画的な借家人対応の流れ

4 まとめ

以上、事例地区の結果から見ると、計画的な借家人対応を行うメリットとして次のようなことが言える。

(1) 事業期間の短縮

仮換地指定後の事業期間を見ると、対応を行っていない地区では15年以上となるが、対応を行った地区では10年程度であり、計画的な借家人対応により事業期間が短縮されている。また、短期間で事業が完了することで事業効果の早期実現にも寄与している。

(2) 土地の流動化の促進

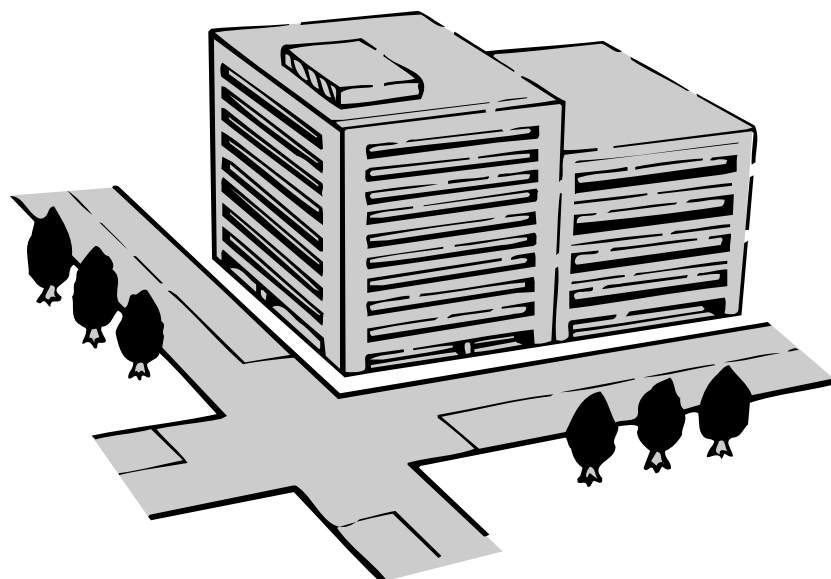
さらに、長屋住宅等が多い老朽密集住宅地等では、安い賃貸料で賃借契約がされている場合が多い。そのため、土地所有者が土地活用を望んでも借家人が出ていくことが少なく、実現できない場合が多い。そのような状況に対して、計画的に借家人対応を行った地区では、公共による住宅の供給により借家人と土地所有者の権利関係の解消が実現でき、土地所有者の意向に沿った土地活用が実現されていると共に、土地の有効利用が実現できている。

今後より一層既成市街地での土地区画整理事業が増加していく中、以下に示す事項に留意して借家人対応を行い、確実な事業推進を図る必要がある。

- ・事業認可前に意向調査の実施や生活再建案を示す等、早期に借家人の対応方策を検討・提案する。
- ・借家人の受け皿住宅を地区内に整備する等、地域のコミュニティを壊すことなく、生活再建を実現させる。
- ・密集事業等、土地区画整理事業以外の事業を同時に実施する場合には、部局間の連携を十分に図る。(都市計画部局と住宅部局の連携が必要。)

これまで、土地区画整理事業において借家人は事業の阻害要因として取り扱われる場合が多く見られた。しかし、借家人対策を早期に計画的に実施する事は、事業をスムーズに進捗させるだけでなく、借家人には新たな居住地での生活再建を提案し、土地所有者等(地主・大家)には市街地環境の改善を契機とした土地活用の機会を提供することができる。そして、権利者の意向を反映した宅地の再配置や公共施設整備等の事業効果により、土地の流動化を促進し、目指すべきまちづくりや都市の再生を実現する事が可能になると考えられる。

既成市街地での土地区画整理事業においては、借家人対応を義務として捉えるのではなく、総合的なまちづくりを実現するための重要な施策のひとつとして捉え、計画的かつ積極的な取り組みが望まれる。





地域との連携

愛知県河川工事事務所 工務課
長江 幸平

1.はじめに

今年度6月4日、平成12年9月の東海豪雨を受けて、国土交通省中部地方整備局と愛知県が一級河川庄内川及び新川を対象に進めてきた河川激甚災害対策特別緊急事業（以下、激特事業）が完成し、式典が開催されました。

新川の激特事業については、災害発生から概ね5カ年をかけ、河口から新川洗堰までの、全川約21.8kmを対象に、築堤・堤防の強化、河床の掘削、橋梁の改築や補強、河川ポンプの増強、遊水地の整備を行いました。しかし、完成式典における来賓あいさつのなかで、「この激特事業の完成により、庄内川、新川では、洪水に対する安全性が飛躍的に向上されたが、それによりすべて保証されるものではなく、ソフト対策の充実や地域との連携が重要です。」という言葉がありました。このことについて、少し紹介したいと思います。

2.情報提供とその活用

東海豪雨が契機となり、平成13年7月に水防法が改正され、洪

水予報の指定範囲を都道府県が管理する河川にも拡充され、愛知県は東海豪雨で破堤した新川を平成15年5月に洪水予報河川に指定するとともに、浸水想定区域の指定・公表を行いました。

これを受け、新川流域の市町村においては、市町村地域防災計画に浸水想定区域を反映させるとともに、洪水氾濫の危険性について普段から地域住民の理解を深めるため、万一洪水氾濫が発生した場合に浸水が想定される区域、避難場所、避難路等について分かりやすく図示した洪水ハザードマップ等を、住民に周知するよう努力されております。

洪水ハザードマップが地域住民に有効に活用されるためには、洪水ハザードマップが地域毎の水害の特徴を十分踏まえたうえで、地域住民がそれをどのように理解し、避難行動に役立てるかが大切です。

3.おわりに

東海地震・東南海地震に加え、水害に対する備えの必要性が指摘されております。どちらも共通して必要なのは、「迅速に正確な情報提供」、「地域との連携」です。しかし、何よりも必要なのは、普段からの備え、防災意識を維持し続けることかもしれません。



「静岡大橋」橋梁整備手法

静岡市街路課 静岡大橋建設室
深澤 英壽

都市計画道路・丸子池田線は、JR静岡駅の南に位置し、駿河区の東西を連絡する重要路線であります。延長約9キロ、代表幅員25m、昭和36年に「丸子池田線」として都市計画決定され、昨年度末の進捗率は約49%となっています。

一級河川「安倍川」河口より上流約3キロ地点、また丸子池田線の起点より東方約3キロに位置する「静岡大橋」は、「安倍川」に架かる橋の中でも最長（905.1m）であります。

当大橋は、平成4年、新たな交通ルートとして暫定2車線で開通しましたが、その後、前後の道路整備が進んできたこと、また近年の交通量の増加に対応するため、平成15年、4車線化工事と合わせ既設橋脚の耐震補強工事に着手したところであります。

当大橋は、様々なところでグレードを上げて設計しています。その背景ですが、昭和60年代前半、公共事業を進める発注者側は、公共施設の景観形成に対して大きな転換期を迎えていました。すなわち、人々の欲求は「物の豊かさ」から「精神的な安定」「心のやすらぎ」を求めるようになり、人々の価値観が大きく変わり始めた時代であったわけです。

こうした時代の変化を受けて、本市総合計画（抜粋）では、都市づくりの基本的な考え方として、『本市は、美しい自然と温暖な気候に恵まれ、山や海に囲まれた変化に富んだ土地空間を保有している。…21世紀におけるまちづくりを展望しながら自然の保全を基調にその有効利用を推進する。』と示し、また時を同じくして都市景観条例が施行され、『市長は公共施設

の整備等を行うときは、都市景観の形成に先導的な役割を果たすよう努めるものとする」と定められました。静岡大橋を計画した当時、まさにそんな時代の変遷にあったといえます。

そこで、静岡大橋の設計に際しては、①当大橋の北側にはJR、南側には東名高速道路など国幹レベルの大動脈が走っていて、不特定多数の人々の視線が注がれる位置にあることから「見せる橋」として、また市の「シンボル橋」として捉え設計しています。②安倍川右岸から東方を眺めると、日本一の「富士山」や景勝地「日本平」が望めるなど、貴重な景観資源を保有していることから、自然に配慮し違和感のないよう設計しています。③長大橋であるが故の距離感や疲労感を感じさせないようバルコニーを設置して、憩いの場を提供するなど工夫をしています。

デザインコンセプトを「川上の壮大な劇場」としました。橋を渡る自動車は小道具に例え、「富士山」や「青空」は壮大なバックセットとなり、川の流れや鳥のさえずりはバックミュージック。そして、「主役」は橋を渡る「一人・ひとり」だと位置付けました。その「主役」が、今後どのような演技手になるのかは、「一人・ひとり」の夢にかかっています。きっと素晴らしい演技手になることでしょう。

当大橋の愛称を「ギャラクシー」（銀河）と名付けています。完成は平成18年度末になりますが、来静の際は、是非一度通っていただきたいと思います。



安倍川右岸から東方を望む



技術者のありかた

中部復建(株) 岐阜支店
河野 公典

厳しい社会・経済情勢を鑑みこれからの建設コンサルタント技術者像について考えてみたいと思います。近年続く公共事業の削減から調査・設計業務委託の発注量も減少傾向にあり、限られた業務委託を多くの建設コンサルタント会社が競って取り合う状況下にあります。今までのように、発注者の方から指名され受注できた時代は少しずつ終わろうとしており、標準プロポーザル方式等の一般競争入札方式に変わろうとしています。また、設計業務においては、建設CALS/ECとして全面的に対応していかなければならなくなりました。特にIT関連に関しては、この十数年間にすさまじい勢いで変化を遂げてきました。建設業界においてもCAD・インターネット及びさまざまな新技術・新工法などIT技術に対応するだけでも大変なうえ、顧客ニーズ(コスト縮減、環境問題等)にも的確に対応していかななくてはならなくなりました。このような状況下の中、建設コンサルタントの技術者は生き残りに賭けどのような技術者として変革していかなければならないか私の意見を述べてみたいと思います。

まず、技術力を高めること、技術者倫理を身に付けること、顧客の信頼を得ること、の少なくとも3つを目標にして取り組んでいく必要があると思います。

1つ目の技術力を高めることについては、他社に負けない能力を身に付ける努力が必要です。自分が専門とする知識の他、多分野の技術も技術雑誌等を活用して自己の知識向上に取り組んでいく必要があると思います。

2つ目の技術者倫理を身に付けるということですが、これは簡単に説明すると、技術者(人間)としてやって良いことと、悪いことの分別をもつということの意味です。(法令遵守)

3つ目の顧客の信頼を得ることにおいては、技術者として高い品質の成果提出と、納期厳守がもっとも重要であるとともに、説明責任をきちんと果たすことができる技術者が顧客の信頼を高める一番いい方法ではないかと思っています。

以上、一人の技術者として今後生き残っていくためには、目標を定めこれを確実に実行していくことがとても大切なことではないかと思っています。



「愛・地球博」における レンタサイクルの取組み

(株)創建
木下 俊男

はじめに

「愛・地球博」が3月25日から9月25日までの185日間にわたり開催され、約2200万人が来場しました。

博覧会へ来場したアクセス手段別入場者の分担率は、リニモなどの鉄道系は49%、P&Rを含むバスは36%。それ以外の交通機関が15%あり、その中には自転車、徒歩での来場も含まれます。(注;データは中部運輸局、博覧会資料による)

開催期間の終盤には来場者が集中し、リニモ等の待ち時間は予想以上のものとなりました。一方、期間中盤以降は民間駐車場の利用、会場ゲート周辺までのK&R、自転車等の交通手段を選択する等の工夫も多に見られました。

ここでは、その中でも藤が丘駅におけるレンタサイクルの取組みについて述べます。

レンタサイクルの取組み

レンタサイクルは、市民団体「市民・自転車フォーラム」「サイクル・エコ」により運営されました。地下鉄東山線「藤が丘」駅付近において、往復700円～、片道300円の貸出しを行い、同時に「自転車マップ」も活用されました。「自転車マップ」とは博覧会へ行く際にどの道を通れば走りやすいのかを考えたアクセスマップであり、地元住民とのWSによる情報収集を行い、名古屋国道事務所・瀬戸市・尾張旭市・長久手町の方々の協力を経て作成しました。

以下に自転車利用者アンケートの際の特徴を記します。

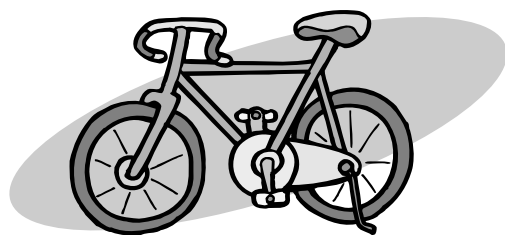
- ・ 平日でも早朝6時以降には多くの方々が自転車で来場し、午前中だけでなく夕方から来場される方も目立った
- ・ レンタサイクルでは多数のリピーターが存在し、近畿や関東からの来場者もHP、口コミ等の情報により利用されていた

今後の課題

今後は自転車利用者のニーズを踏まえ、ハード整備とソフト施策を連携させることが必要となると考えられます。

また、自転車利用者のモラル向上、駐輪場の整備等が課題として挙げられ、私もコンサルタントとして課題解決に取り組んでいきたいと思っています。

以上



○クリックコーナー○

コンサルタント川柳

大発表!!

一味な一句をお楽しみくださいー

EXPO

終わっちゃう
いましほねえ

はあー
うー

楽しみの
万博詣で

もう終わり

検討を

重ねて重ねて

最初の案



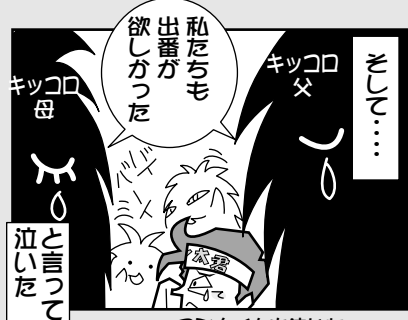
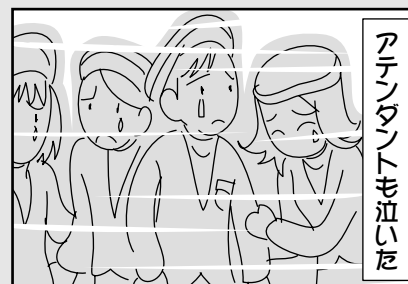
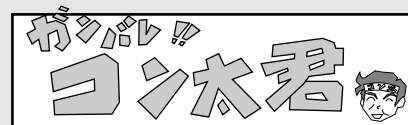
温暖化

桜の定番

早くなり



四コマ漫画



コン太くんも泣いた...

置き土産

万博資料

再利用

なーこれも再利用ー? ナニ使うのさー

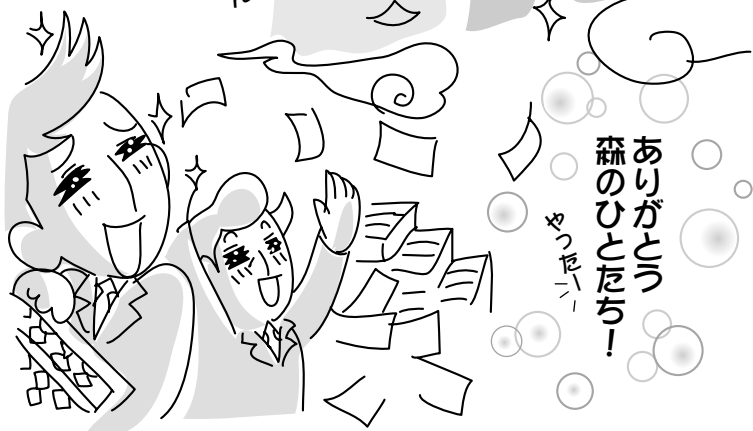
オィ、こっちも台車回してー!

...おわし
とんがら
回しん
いしや
いかな
い

万博の

祭のあとは

金勘定



総務 部会

部会長 小島裕二

運営委員会の活動について

運営委員長 西出善助

1 災害時支援協定について

- (1) 国土交通省中部地方整備局との「災害時における中部地方整備局所管施設の緊急的応急対策の支援に関する協定」の改訂に伴い、応援技術者について会員の皆様よりアンケートを募り、その集計を報告致しました。
- (2) 愛知県との「異常気象時における橋梁緊急点検等に関する協定」に基づき、災害発生時に緊急輸送道路の確保を目的として橋梁の緊急点検を行うため、会員会社の支援申し出により、愛知県建設部各出先事務所と「巡視業務に関する協定書」の締結を個別に頂きました。
しかしながら各社の諸事情から、今後支援会員・応援技術者について見直しの必要性を実感しているところであります。
- (3) 名古屋市との「災害時における緊急的な災害応援対策業務の支援に関する協定」（基本協定）に基づき、今年度の支援協定会社について報告を致しましたが、緊急時の橋梁点検業務についての「覚書」締結については、橋梁点検業務費用と合わせ、今後の協議となりますが、基本協定のまま、覚書の締結は行わない可能性もあります。
- (4) 愛知県道路公社より、愛知県同様、災害発生時の緊急輸送道路の確保を目的とした橋梁及びトンネルについての緊急点検を行う「災害時における技術者支援協定」の締結要請があり、愛知県への支援の班体制と同じ班体制で支援することに致しましたが、点検費用については協議中であることから、未だ協定の締結までには至っていません。

2 災害演習について

平成17年度災害演習について、災害時対策要綱に基づき、名古屋市南部（伊勢湾沖）に阪神淡路大震災クラスの大规模地震が発生したとの想定により、9月1日に災害時行動計画の演習が行われました。

本部と支部との連絡・伝達網及び支部と会員各社との連絡網が正常に機能できるかの検証を目的として実施されましたが、会員皆様方の多大な御協力により大過なく無事終了することができました。紙面をお借りして感謝申し上げます。

『自然の叡智』をテーマに開催されました「愛・地球博（2005年日本国際博覧会）」は2,200万人を超える入場者数で、大盛況のうちに惜しまれつつ閉幕いたしました。

それでも現在、日本で一番元気なのは「中部」と言われております。

中部国際空港及び愛知万博の2大プロジェクト以降の事業計画に期待するところが大きいです。建コン協として、災害支援等地域に密着、貢献する業務を含め、より良い社会資本整備に寄与すべく更なる技術力向上への努力の必要性を痛感するものです。

総務部会上半期の活動を次のとおり報告させていただきますが、会員皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い致します。

ただ、今回の防災演習の結果、各支部から必要な情報を臨機応変に送信できないことなど、情報伝達システムについての課題等が本部に寄せられ、災害時対応検討委員会での討議の結果、現システムを改良する方向で検討することに致しました。

3. 平成17年度臨時総会について

補正予算並びに役員補選について、臨時総会が10月27日に開かれました。

両議案とも原案どおり可決されました。

4. 支部細則の見直しについて

かねてからご指摘のありました支部組織について役員会を通じて各支部に対し、委員会のあり方を検討するよう指示があり、現在見直し作業に入っております。

今後その結果を踏まえ、支部細則の改訂に向けて検討して参ります。

5. 役員選考特命委員会の活動

支部役員の辞任、転勤に伴う後任役員補選のため、6月の役員会で承認されました選考委員会（委員10名、オブザーバー2名）により、役員選考をし、10月27日の臨時総会にて承認されました。

また、役員選考特命委員会については、次期役員改選に向け、引き続き候補者選考活動を行う予定としています。

厚生委員会の活動について

厚生委員長 請井謙一

厚生委員会は、会員相互の親睦、文化活動及び健康増進等の活動を企画、実施しております。会員の多数の参加を期待いたしております。

【上半期厚生活動】

1 第112回ゴルフ例会の開催

開催日:5月13日(金)

場 所:オールドレイクゴルフ倶楽部

参加者:18名

2. 劇団四季ライオンキング鑑賞会の開催

開催日:7月30日(土)

場 所:新名古屋ミュージカル

参加者:30名

広報部会

部会長 石川高史

元気な話題に満ちた中部の2005年から、新たな中部の飛躍を目指すテイクオフの年2006年を迎えました。今年も引き続き元気な中部でありますよう、心から願うものです。

昨年3月25日から185日間、2,200万人余の入場者で大成功裡に終わった「愛・地球博」は、私たちに多くの話題を提供してくれました。「図夢in中部」では、16、17号の2回にわたって地元で開催される21世紀最初の万博特集を計画し、16号では「私たちの出会った「愛・地球博」」をお届けしました。今号は、環境をテーマに開催された万博から学んだことの一端を中心にお届けします。支部会員は、これまでも環境に関わる多くの業務に携わってきておりますし、今後も引き続き環境問題に貢献していくことが、建設コンサルタントの使命の一つであると考えます。

さて、昨年はアメリカやパキスタンでのハリケーンや大地震による大災害など、一昨年に続いて地球規模の自然災害が発生しました。台風やハリケーン、豪雨などの頻発は、地球温暖化がその一因として考えられる点に大方の異論はないでしょう。専門家によれば、気温や降雨などに限らず自

然には大きな変化のサイクルがあり、近年の異常気象の多発が全て地球温暖化に起因すると断定するには不十分と言われています。

現在に生きる我々は、万博のテーマとして掲げられた「自然の叡智」に謙虚に学ぶことが大事なこととも言えません。今号の特集では、建設コンサルタントの一員としての環境万博体験の一端を情報発信し、「愛・地球博」特集の締めくくりとします。

広報委員会の主な活動について

広報委員長 浅井 俊 治

広報委員会は、建設コンサルタンツ協会中部支部会員のPRを、さまざまな協会活動紹介を通じて行なっています。平成17年度は、「図夢in中部Vol.16、17」及び「会員名簿」を顧客の皆様全てに直接手渡しし、御意見等を頂くことを目標に、4班編成で汗水をたらして行なったところ、ほぼ達成することができました。今後も、委員一同頑張っていきたいと思っています。

主な活動

図夢in中部Vol.16、17の配布
中部支部会員名簿の配布
全国版会員名簿の配布
独立禁止法講習会



編集委員会の主な活動について

編集委員長 佐藤 脩

H16.上期の「図夢in中部」vol.17の発行に向けて毎月1回の委員会を開催してきました。

今号の特集は万博シリーズ第2弾として万博から学ぶ「愛・地球博」というテーマで取り組みました。

愛知万博は予想をはるかに越えた入場者が訪れ、成功裏に終わったことは当初計画から参画してきた我々会員としては大変喜ばしいことと思います。今後の公共事業はやはり環境問題、エネルギー問題を考えずして進めていくことは出来ないと思います。貴重な経験を生かしてコンサルタントの存在を社会に示していければなー、と思っています。今後ともタイムリーなテーマを取り上げてまいりたいと思います。執筆のご協力いただいた会員の方々には厚く御礼申し上げます。

巻末のページに「読者アンケート」として綴じ込みのはがきがありますので、どんな些細なことでも結構です。皆様方のご意見・建設コンサルタント川柳を是非、お寄せください。

委員一同心からお待ちしています。



『図夢in中部』の掲載は
こちらから**アクセスIN!**

<http://www.ccainet.org/>
バックナンバーも掲載してあります。
是非ご覧ください。

河川専門部会

部会長 上高原 健

大型のハリケーン「カトリーナ」が8月29日朝、ジャズ発祥の地として知られるニューオーリンズ市付近に上陸し、高潮による未曾有の被害をもたらしました。カトリーナの中心気圧910ヘクトパスカル、最大風速72m/sとハリケーンが凶暴化していると指摘されています。わが国においても9月上旬に上陸した台風14号など近年台風が大型化しており、原因として温暖化による海水温の上昇が言われています。河川技術者として、やらなければならないことが山積みであることを実感させられる災害が続いています。

河川委員会では、今後も下記に示すような講習会、見学会をはじめ議論の場を提供し、会員相互の技術研鑽に役立つ活動をなおい層進めていきたいと考えています。

平成17年4月から9月までの活動内容は、次の通りです。

1 河川専門部会・委員会の開催

月一度開催し、定例役員会報告と議論、各分科会報告、各行事の企画・準備、会計報告など委員会活動に関わる議題を取り上げた。

2 河川研究会総会の開催

6月8日(水)愛知厚生年金会館で27社55名の参加を得て、河川研究会総会を開催した。総会では、各委員から平成16年度の会計監査を含めた活動報告と平成17年度の活動計画が発表され採択された。

3 河川講演会「美的な視点から土木デザインを観る」の開催

上記総会の後、東京学芸大学名誉教授 伊藤清忠先生から、土木施設は規模の大小に関わらず建造し存在する限り、形・材質・色があり、必然的に美と関係するためのデザインが不可欠であることや土木デザインのポイントなどを話していただいた。



4 各種研修会への講師派遣(愛知県、三重県、岐阜県)

愛知県「河川計画実務研修」、三重県「建設技術研修」、岐阜県「河川砂防研修」の各研修会に8名の講師を派遣した。

5 各分科会活動

(1) 第一分科会(河川・砂防・海岸に関する調査計画)

9月2日(金)、テーマ「河川計画に係わるソフトウェアの動向について」(財)国土技術研究センター(JICE)の湧川勝巳次長に講演していただいた。33名の参加を得、講演では、「世界における水理計算システムの概要」とJICEが作成・公開している「河道計画シミュレーター」さらに「治水バランス評価手法」について説明していただいた。

(2) 第二分科会(河川・砂防・海岸に関する環境)

①「ビオトープの実践事例の見学会」

7月14日(木)参加者15名

1級ビオトープ計画管理士である土屋ビオトープ財団児玉孝也氏を講師に、現地見学と意見交換を実施した。企業ビオトープや学校ビオトープの先進事例を見学し、地域と一体となった環境保全への取り組みやこれからの川づくりに活かせる貴重な体験をすることが出来た。



②「自然共生技術に関する研究の現状、河川環境の保全復元の技術」に関する見学会

自然共生研究センター 8月10日(木)13名参加

自然共生研究センターで、上記テーマについて真田誠至氏の案内により研究棟及び実験河川を視察し、川づくりと生物の関わりやその生態的機能の解明などの研究成果に知識を得る機会となった。

(3) 第三分科会(河川・砂防・海岸に関する構造計画・設計)

9月29日(木)、日頃取り組んでいる業務について、ポスター形式にまとめて発表することにより、会員相互の技術向上と交流を図ることを目的にポスターセッションを開催した。6編の応募ポスターと13社23名の参加者を得て、活発な意見交換を実施することが出来た。

6 研究会だよりの発行

28号(4月15日発行)及び29号(9月15日発行)を発行した。

7 下半期の活動

・河川技術セミナー「堤防の質的整備及び河道と施設の維持管理技術」

11月2日(水) 名古屋市工業研究所

・河川見学会「東海豪雨対策関連施設、又は堤防の質的整備と管理(木曾川)」平成18年1月予定

他

対外活動部

部会長 伊藤雅士

今春「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）が施行されました（4月1日）。この法律の基本理念は、価格と品質が総合的に優れた内容の契約がなされることにより、確保されなければならないこと等を基本とし、

①公共工事の品質確保及び発注者の責務。

②価格競争から価格と品質で総合的に優れた調達。

③発注者をサポートする仕組み。

の3点がポイントであり、発注者に「価格と品質」が総合的に優れた内容の契約がなされることを義務づけることにより、受注者も技術力の向上を高め、公共工事によってもたらされる社会資本の品質が確保されることを規定している。

その後、8月26日にこの品確法が公共工事の促進を図るため取り組むべき、

基本方針が閣議決定された。

この中で、調査・設計の品質確保に関する事項では、調査・設計の契約において価格のみによって契約するのではなく、技術提案を求め、それを評価し、最も適切な者と契約を結び品質を確保する方式を採用する。（プロポーザル方式による契約）

また、工事についても、技術提案を求め、品質の向上、技術力の向上を図る（高度な技術提案を求める場合→設計施工一括発注方式による契約）の方針が定められた。

また、9月30日には国土交通省が、総合評価方式の実施手順や発注者支援策等をまとめた「品質確保促進ガイドライン」を策定した。

今後の方向として

・設計施工一括発注方式による契約。 ・コンストラクションマネジメント方式によるマネジメント業務の試行。

・設計と施工の異業種JVを検討し試行。

等取り組んでいくこととなり、コンサル業界としては、益々多方面にわたる技術能力が求められることとなった。

対外活動部会の17年度上半期の活動について報告します。

1 「建設コンサルタントの要望と提案」に関する意見交換会

日 時：6月13日（月）

場 所：KKRホテル名古屋

出席者：国土交通省 中部地方整備局 大村局長、外12名

愛 知 県 建設部 新井技監

岐 阜 県 基盤整備部 田中参事

三 重 県 県土整備部 池山GR

静 岡 県 土木部 古川部長

名 古 屋 市 緑政土木局 寺西課長

静 岡 市 建設局 前田局長

建設コンサルタンツ協会

（本部）

石井会長、外10名

（中部支部）

石井支部長、外3名

議 事：(1) 建設コンサルタントの選定

(2) 品質の向上

について、今年度も昨年度と同様に開会から閉会まで

マスコミに公開して、上記テーマについて意見交換した。

建設コンサルタントの選定については、

・整備局は、技術力に基づく選定としてプロポーザル方式を更に拡大していく。

技術者要件として、過去10年間の実績。

技術提案を求める社の選定に地理的条件、地域精通度の評価、業務成績、優良表彰等により選定している。

・愛知県は、一部基本計画などプロポーザル方式での試行をしているが、制度の拡充を進め取り組んでいきたい。

・岐阜県は、プロポーザル方式は、建築で一部実施している程度であり、今後導入に向けて検討していく。

・三重県は、平成15年度からプロポーザル方式での試行を

しているが、今後とも制度の拡充を進め取り組んでいきたい。

・静岡県は、プロポーザル方式による契約は、これまで7件実施、今後もプロボによる契約を採用していきたい。

・名古屋市は、建築についてはプロポーザル方式を採用している。建築以外について今後検討していく。

・静岡市は、建築で今年度プロポーザル方式による発注を予定しているが、建設局部門では、予定はなく今後導入に向けて検討していく。

品質の向上については、

(1) 業務プロセスの改善

・業務範囲・内容の明示 ・適正な工期の設定

・納期の平準化 ・打ち合わせ協議の記録の押印

・官民協同の検討会の設置

(2) 建設コンサルタントの設計責任の明確化

・各関係者の責任範囲の再認識

について、各発注者側とも双方意義のあることであり、徹底を図り、トラブルを防ぐ努力をしていくということでありました。

2. 「建設副産物対策連絡協議会」

日 時：6月10日（金）

場 所：愛知県産業貿易館

参加者：三浦対外活動副委員長

議 題：・建設リサイクルの取り組みについて

・建設汚泥利用マニュアル（案）について

日 時：8月24日（水）

場 所：名古屋合同庁舎2号館

参加者：三浦対外活動副委員長

議 題：建設副産物実態調査について

以上が平成17年度上半期の主な活動です。

道路専門部会

部会長 水藤政勝

道路専門部会は道路関係技術者の技術の研鑽と会員相互の交流を主目的とし活動し、各種諸行事を行っております。

道路委員会は平成16年度とほぼ同一のメンバー（一部転勤等により交代）で部会長以下13名にて他の専門部会と協力しあって、上半期（4月～9月）の委員会については月1回程度のペースで5回開催し理事会・行事の報告ならびに次期行事の準備及び講師派遣の選任等々の打合せを行っております。

道路研究会については5月20日に総会を開催し53社157名にてスタート致しました。一昨年度より少人数形式になるワーキンググループ（WG）も活発に活動し、各種勉強会等を開催致しております。

1 道路研究会総会

平成17年5月20日（火）名古屋ガーデンパレス

①平成16年度総括及び平成17年度事業予定

②道路研究会活動報告・計画（案）

・道路研究会WG活動

・道路研究会だより

・会計報告・（予算案）

③特別講演 「道路斜面災害の軽減に向けて」

岐阜大学 工学部 社会基盤工学科

八嶋 厚 教授

④交流会

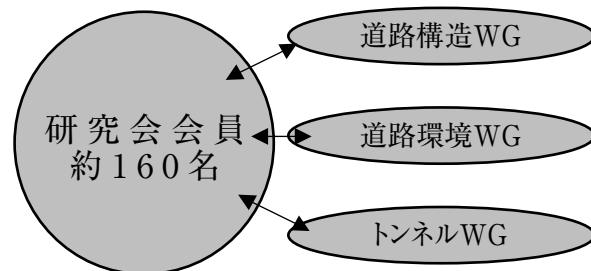


2 活動報告

平成17年度の活動方針は昨年度と同様、建設コンサルタントの一員として又、社会資本の根幹である道路部門の技術者として幅広い視野を持ち、地域に必要な道路あるべき姿を模索していくことが必要と考え「視野の拡大と、地域貢献の手法研究」として活動しています。

昨年と同様WGによる活動を実施致しますが、WGの構成を一部修正変更して3つのWGにて活動しております。

WG組織概念図



主たる活動

・道路構造WG

道路構造令の基礎勉強会他（7/28）

道路から見たトンネル設計勉強会（9/2）

・トンネルWG

計画・設計上の問題点の抽出他（7/29）

見学会（第2東名道）（9/15）

・道路環境WG

講習会「道路環境から考える騒音」（8/26）

3 下半期の活動

・現場見学会（11/22）

新丸山ダム（事）の新旅足橋建設現場

及び八百津の町並散策

・技術講習会（12/7）

「来るべき大地震に備えて」

～直下地震と海溝型巨大地震動の特徴～

・各WGによる見学会、勉強会

電線共同講モデル施設見学

工事中トンネル見学会

IT関連講習会

錯覚する道路の勉強

構造・土質 専門部会

部会長 関谷憲正

本専門部会は、会員の技術力向上と会員相互の交流及び新技術情報の共有等により、構造・土質分野におけるコンサルティングエンジニアとしての資質向上の一助となることを目的として活動しています。

具体的には、研究会活動として研究会総会、現場見学会、技術講習会と鋼構造、コンクリート、下部・基礎および土構造の4分科会による技術講習会、現場見学会を開催しています。本年度の活動にあたっては、構造・土質の研究会員であればどの分科会行事にも参加可能とすることや、技術講習会には発注機関の技術者にも広く門戸を開放するなど部会活動の活性化に努めております。

また、国や県の発注機関への講師派遣、中部地方整備局の「設計計算書に関する検討会」への参加により設計成果品の向上への取り組みを

行っています。この他災害時の橋梁点検シートや歩掛りの作成、名古屋打ち水作戦への参加等、他部会と連携して中部支部活動の一旦を担っております。

1 研究会活動報告(4月～9月)

(1) 構造・土質研究会総会

6月2日(木) 愛知厚生年金会館

議題:①H16年度の活動報告

②H17年度の活動計画および予算

講演:「新技術・新工法の活用普及について」

講師:国土交通省 中部地方整備局 中部技術事務所
建設専門官 勅使河原 雅敏氏

参加人数:34社74名

(2) 現場見学会



8月3日(木)

見学場所:三遠南信自動車道

鳳来地区三遠トンネル新設工事現場

参加人数:10社 17名

所 感:三遠トンネルは、愛知県鳳来地区から静岡県引佐地区まで県境を貫く延長4,525mの、国土交通省では全国で4番目の長さのトンネルである。トンネルは、幅12.1mの本坑(上半先進ベンチカット工法、発破掘削タイヤ方式)と幅4.7mの作業坑(全断面掘削工法、発破掘削レール方式)

が並列している。特徴は、坑口付近の施工スペースが狭く作業坑の中に部分的に断面を広げて作業基地を設けていること、軟弱な中央構造線を貫通することである。

2. 分科会活動報告(4月～9月)

(1) 鋼構造・コンクリート合同分科会 現場見学会

7月15日(金) 岐阜県揖斐川町地内

見学場所:徳山ダム 徳之山八徳橋

PCエクストラードード橋

参加人数:25社 40名

(2) 下部基礎・土構造合同分科会 技術講習会

7月8日(金) ジオ・ラボ中部(中部土質試験共同組合)

①「土の透水係数の推定方法の提案」

講師:ジオ・ラボ中部 専務理事 坪田 邦治氏

②「地盤調査と土質試験の基礎知識」

講師:基礎地盤コンサルタンツ(株) 細堀 建司氏

③土質試験所内見学

案内:ジオ・ラボ中部 技術部長 荒川 真司氏

参加人数:33社 55名

「平成17年度構造・土質委員会現場見学会」報告書

松村 裕二

記

- 1 日 時 2005年8月3日(水) 9:00～17:00
- 2 場 所 三遠南信自動車道
鳳来地区三遠トンネル新設工事現場
- 3 発注者 国土交通省中部地方整備局
浜松河川国道事務所
- 4 施工業者 大林・銭高特定建設工事共同企業体
- 5 参加者 建コン会員
10社17名(内委員5名)+土工協2名

6 所 感

三遠トンネルは、三遠南信自動車道の内、愛知県鳳来地区から静岡県引佐地区まで県境を貫く延長4,525mの区間であり、国土交通省では全国で4番目の長さのトンネルである。

トンネルは、幅12.1mの本坑(上半先進ベンチカット工法、発破掘削タイヤ方式)と幅4.7mの作業坑(全断面掘削工法、発破掘削レール方式)が並列している。特徴は、坑口付近の施工スペースが狭く作業坑の中に部分的に断面を広げて作業基地を設けていること、軟弱な中央構造線を貫通することである。

当日は、技術士試験の直前ということもあり参加者が少なく残念でしたが、参加者は熱心に見学を行い、個人的にも初めてレール方式の設備を見ることが出来貴重な経験であった。

今後、中央構造線区間の工事に興味があり、機会があればまた現場を訪れたいと思います。



説明会風景

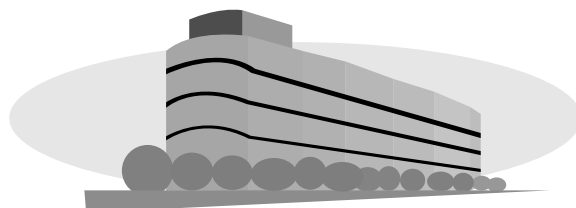


坑口で集合写真

都市計画 専門部会

部会長 山北泰典

都市計画部会では、技術研鑽を通じて会員が集い、交流する場づくりをめざしており、学識経験者、官公庁、民間の方々との技術的な交流を含め、さまざまな企画を検討しています。



1 都市計画委員会

委員会を4月～9月で5回開催し、見学会、講習会、業務技術発表会、各分科会の企画、運営について協議しました。

2 都市計画研究会の活動

(1) 総会

平成17年6月8日(水)

レセプションハウス名古屋通信会館

議 事：平成16年度の活動報告と平成17年度の方針
平成16年度決算報告と平成17年度の予算方針

ほか

講 演：「成熟社会の社会資本整備と学・コン連携」

岐阜大学地域科学部 竹内伝史教授

会員数：35社125名 参加者：69名 懇親会：46名

竹内先生の講演では、始めに、公共事業のあり方が注目される中で、生活関連社会資本整備を充実すること、評価の視点を事業効果から施設効果へ転換することの必要性についての話があり、さらに成熟社会においては、交流社会基盤整備が重要であること、地方分権型の社会資本整備の意義と、そのための産官学の連携の必要性、特に学・コンサルタントの連携のあり方等について、行政の現場を踏まえた示唆に富んだ講演を頂きました。



(2) 見学会

1) 開催日：平成17年10月27日(木)

(当初の9月7日(水)予定が台風で延期)

2) 見学場所：滋賀県彦根市

(帰路 長浜市黒壁スクウェアに立ち寄り)

3) 参加者：21名

彦根城の中濠の辺にある市民会館にて、彦根市都市開発部都市計画課の寺田副主幹より、彦根市の歴史と都市づくり、中心市街地における事業の取り組み経過等についてご説明をいただきました。その後、土地区画整理事業による基盤整備と大正ロマンをテーマに街並み景観整備が進められている『四番町スクエア』、並びにシンボルロード整備事業による道路整備と街並み修景基準、地区計画により沿道の町屋景観をつくりあげた『夢京橋キャッスルロード』を歩きました。若い女性の二人連れがそぞろ歩き、飲食店も繁盛している様子。『四番町スクエア』はまだ整備途中で、今後のさらなる発展が楽しみに感じられました。

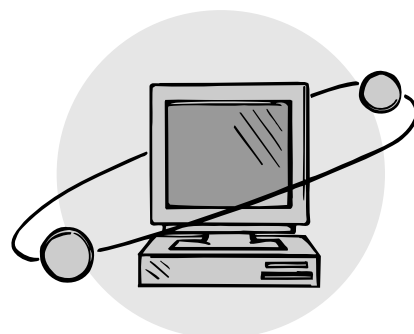


6. 協会活動紹介

情報部会

部会長 青木 滋

平成17年度上期の情報部会では、情報委員会、CALS/EC委員会において、会員相互の情報連絡の迅速化と情報の共有、さらには支部会員に対するCALS/ECへの支援を目的とした活動を進めてまいりました。今後も提供してほしい情報やホームページに関するご要望があれば、承りますのでよろしくお願いいたします。



情報委員会

情報委員長 紺谷 誠

1. ホームページのリニューアル

協会中部支部ホームページのイメージアップを目的に、ホームページの背景写真を公募しました。その結果、次の2名の方が優秀賞に決定しました。優秀賞は、中部支部ホームページのリニューアル時に背景写真として採用いたします。なお、この企画は来年度も予定しています。

- 相馬 通 様 八千代エンジニアリング(株)
- 中山繁実 様 大日コンサルタント(株)



2. メーリングリスト

情報発信の効率化を目的として、メーリングリストの導入を予定しています。支部ホームページのグループウェアのオプションとして「ニュース型メーリングリスト」を追加する方式です。技術専門部会(道路、河川、構造土質、都市計画)、情報部会で活用できるようにします。

3. 情報セキュリティ

支部としての情報セキュリティに関する活動内容を検討中です。建設コンサルタントとして備えるセキュリティ対策(借用資料の保管・返還、リスク対策など)や講習会開催(次年度)に向けて調査研究を行なう予定です。

CALS/EC委員会

CALS/EC委員長 矢島賢治

10月までに以下の活動を実施しました。今後、電子納品の実態調査に関するアンケートを実施する予定としておりますので、支部会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

・GIS実践講習会

(平成17年9月27～28日:名古屋市工業研究所 第5会議室)

・CAD講習会

(平成17年12月13日(予定):名古屋市工業研究所 第5 会議室)

今後も本部CALS/EC委員会との連携のもと地域の状況に配慮し、CALS/EC関連の課題解決のため支部会員の皆様への支援活動を展開していきたいと考えております。当委員会へのご質問や意見、要望等ございましたら電子メールにてお気軽にお問合せ下さい。

(メール宛先: calsec@ccainet.org)

なお、支部ホームページにおいて中部地方のCALS/EC関連情報をとりまとめた「CALS/EC情報コーナー」を設置していますのでご利用下さい。

7. 会員名簿一覧表

会 社 名	所 在 地	電話番号	FAX番号
(株)アイエスシイ	〒466-0059 名古屋市昭和区福江2-9-33 (nabi／白金2F)	(052) 882-1201	(052) 882-1303
(株)アイ・エヌ・エー	〒453-0015 名古屋市中村区椿町14-13 (ウエストポイントビル7F)	(052) 453-6271	(052) 453-6273
(株)葵エンジニアリング	〒453-0018 名古屋市中村区佐古前町22-6	(052) 486-2200	(052) 483-5005
朝日航洋(株)	〒461-0022 名古屋市東区東大曽根町12-19	(052) 930-3431	(052) 930-3436
(株)朝日設計事務所	〒465-0024 名古屋市名東区本郷3-118	(052) 774-7181	(052) 774-0090
アジア航測(株)	〒462-0823 名古屋市北区東大曽根町上5-1071 (明治生命大曽根ビル)	(052) 919-0155	(052) 919-0320
(株)アスコ	〒514-0006 三重県津市広明町341 (メゾンエイムス4F)	(059) 222-8771	(059) 222-1891
アマノコンサルタント(株)	〒444-2131 岡崎市青木町22-5	(0564) 45-2445	(0564) 45-7776
アローコンサルタント(株)	〒462-0007 名古屋市北区如意3-62	(052) 901-7050	(052) 901-7179
(株)飯沼コンサルタント	〒453-0803 名古屋市中村区長戸井町4-38	(052) 451-3371	(052) 451-6813
(株)石田技術コンサルタンツ	〒485-0028 小牧市東新町 50	(0568) 73-1085	(0568) 73-1099
(株)イビソク	〒503-0854 岐阜県大垣市築捨町3-102	(0584) 89-5507	(0584) 89-5901
(株)エイトコンサルタント	〒460-0011 名古屋市中区大須1-35-18 (一光大須ビル)	(052) 229-4188	(052) 229-4187
(株)オオバ	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-24-21 (三井ビルディング別館5F)	(052) 533-5551	(052) 533-5564
(株)大增コンサルタンツ	〒454-0828 名古屋市中川区小本2-14-5	(052) 363-1131	(052) 363-6045
(株)オリエンタルコンサルタンツ	〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-38-2 (オーキッドビル)	(052) 564-7711	(052) 564-7721
(株)カギテック	〒515-0055 三重県松阪市田村町341-1	(0598) 23-1155	(0598) 23-1178
(株)梶川土木コンサルト	〒448-0037 刈谷市高倉町4-508	(0566) 24-6606	(0566) 24-6413
(株)片平エンジニアリング	〒453-0015 名古屋市中村区椿町14-13 (ウエストポイント1413)	(052) 451-0234	(052) 451-0311
(株)神田設計	〒451-0062 名古屋市西区花の木1-3-5	(052) 522-3121	(052) 522-3000
基礎地盤コンサルタンツ(株)	〒451-0044 名古屋市西区菊井2-14-24	(052) 589-1051	(052) 589-1275
(株)橋梁コンサルタント	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-8-12 (菱信ビル)	(052) 582-6886	(052) 582-6880
(株)協和コンサルタンツ	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-23-3 (第二アスタービル3F)	(052) 551-8401	(052) 581-3593
協和設計(株)	〒452-0941 西春日井郡清洲町西市場 3-4-3	(052) 401-0751	(052) 401-0753
協和調査設計(株)	〒461-0004 名古屋市東区葵2-3-13	(052) 937-8066	(052) 937-7681
(株)近代設計	〒460-0003 名古屋市中区錦1-5-27 (第41オーシャンビル)	(052) 232-0921	(052) 232-0920
(株)景観工学研究所	〒464-0075 名古屋市千種区内山3-5-1 (UNIROHビル)	(052) 732-5600	(052) 732-5031
(株)建設環境研究所	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-3-4 (三栄ビル4F)	(052) 218-0666	(052) 218-0667
(株)建設企画コンサルタント	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-24-8 (アクサ名古屋ビル8F)	(052) 561-2103	(052) 561-2105

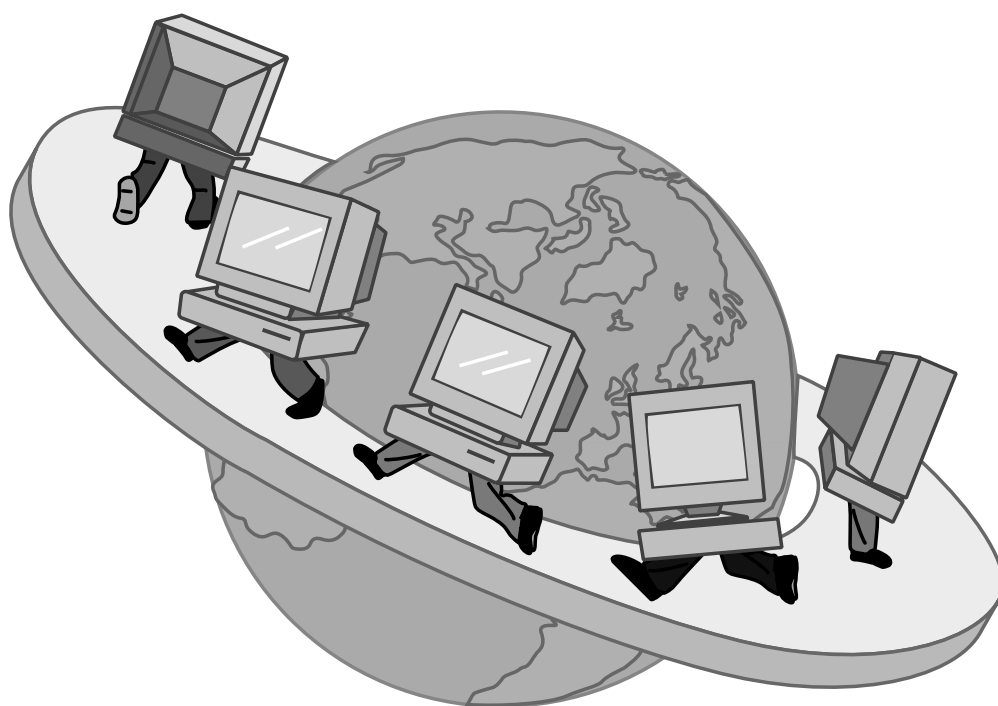
会 社 名	所 在 地	電話番号	FAX番号
(株)建設技術研究所	〒460-0003 名古屋市中区錦1-3-18(エターナル北山ビル)	(052) 218-3833	(052) 218-3821
(株)建設コンサルタントセンター	〒424-0064 静岡市清水長崎新田123	(0543) 45-2155	(0543) 48-2585
(株)興栄コンサルタント	〒500-8288 岐阜市中鶉4-11	(058) 274-2332	(058) 274-2498
(株)国際開発コンサルタンツ	〒460-0008 名古屋市中区栄5-27-14(朝日生命名古屋栄ビル6F)	(052) 242-3060	(052) 242-3062
国際航業(株)	〒451-0025 名古屋市中区上名古屋3-14-19(アーバンネット上名古屋ビル)	(052) 528-5311	(052) 531-7561
(株)コンチネンタル技建	〒503-0813 岐阜県大垣市三本木3-31-1	(0584) 73-8333	(0584) 73-8671
(株)三栄コンサルタント	〒500-8223 岐阜市水海道4-22-12	(058) 246-2558	(058) 247-2592
サンコーコンサルタント(株)	〒453-0015 名古屋市中村区椿町21-2(第2太閤ビル)	(052) 452-1651	(052) 452-8619
(株)三進	〒503-0862 岐阜県大垣市二葉町7-12	(0584) 73-3969	(0584) 73-3966
(株)三祐コンサルタンツ	〒460-0003 名古屋市中区錦2-15-22(りそな名古屋ビル)	(052) 201-8761	(052) 201-8780
(株)三洋開発	〒514-0811 三重県津市大字津興275	(059) 225-3766	(059) 227-6720
三和建設コンサルタンツ(株)	〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-6-18(伊原ビル6F)	(052) 533-2231	(052) 533-3400
ジェイアール東海コンサルタンツ(株)	〒460-0008 名古屋市中区栄2-5-1(宝第一ビル4F)	(052) 232-4100	(052) 232-4109
静岡コンサルタント(株)	〒411-0804 静岡県三島市多呂 128	(055) 977-8080	(055) 977-8731
柴山コンサルタント(株)	〒461-0011 名古屋市中区白壁 1-69	(052) 961-1211	(052) 961-1219
新構造技術(株)	〒460-0008 名古屋市中区栄 1-14-14(御園パレス205)	(052) 223-5761	(052) 223-5762
(株)新東海コンサルタント	〒514-0001 三重県津市江戸橋1-92	(059) 232-2503	(059) 231-1107
(株)新日	〒454-0011 名古屋市中川区山王1-8-28(新日グリーンハイツ)	(052) 331-5356	(052) 331-4010
杉山コンサルタンツ(株)	〒514-1118 三重県久居市新町680-4	(059) 255-1500	(059) 255-1511
住鋳コンサルタント(株)	〒460-0012 名古屋市中区千代田5-8-30(第一三英ビル5F)	(052) 243-6750	(052) 243-6751
セントラルコンサルタント(株)	〒460-0008 名古屋市中区栄 2-11-7(伏見大島ビル6F)	(052) 223-0380	(052) 223-0376
全日本コンサルタント(株)	〒510-0074 三重県四日市市市鷺の森1-16-11	(0593) 52-1052	(0593) 52-1053
(株)創建	〒456-0018 名古屋市熱田区新尾頭1-10-1	(052) 682-3848	(052) 682-3015
(株)総合技術コンサルタント	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-8-10(白川第三ビル9F)	(052) 569-5800	(052) 569-5810
太栄コンサルタンツ(株)	〒460-0012 名古屋市中区千代田3-26-18	(052) 332-3355	(052) 321-3275
(株)大建コンサルタント	〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-17	(052) 252-5171	(052) 252-8044
大同コンサルタンツ(株)	〒500-8288 岐阜市中鶉1-109	(058) 273-7141	(058) 273-7145
大日コンサルタント(株)	〒500-8384 岐阜市藪田南3-1-21	(058) 271-2501	(058) 274-5325
大日本コンサルタント(株)	〒451-0044 名古屋市中区菊井2-19-11(大興クレアシオン3F)	(052) 581-8993	(052) 561-6780

会 社 名	所 在 地	電話番号	FAX番号
(株)ダイヤコンサルタント	〒456-0002 名古屋市熱田区金山町1-6-12	(052) 681-6711	(052) 682-3997
大和設計(株)	〒451-0051 名古屋市西区則武新町4-3-17(加島ビル)	(052) 562-5613	(052) 562-5611
(株)拓工	〒466-0058 名古屋市昭和区白金 3-19-20	(052) 883-2711	(052) 883-2716
玉野総合コンサルタント(株)	〒453-0016 名古屋市中村区竹橋町4-5(玉野第二ビル)	(052) 452-1301	(052) 452-5313
中央開発(株)	〒453-0853 名古屋市中村区牛田通 2-16	(052) 481-6261	(052) 482-8777
中央コンサルタンツ(株)	〒451-0042 名古屋市西区那古野2-11-23	(052) 551-2541	(052) 551-2540
中央復建コンサルタンツ(株)	〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-13-1(セプトン丸の内ビル2F)	(052) 961-5954	(052) 951-6320
(株)中部テック	〒465-0092 名古屋市名東区社台3-48	(052) 771-1251	(052) 775-1310
中部復建(株)	〒466-0059 名古屋市昭和区福江1-1805	(052) 882-6611	(052) 882-9844
(株)長大	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-18-24(マイビルディング4F)	(052) 586-0700	(052) 586-0705
(株)千代田コンサルタント	〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-11-22(IT名駅ビル)	(052) 565-1401	(052) 565-1403
司開発(株)	〒448-0028 刈谷市桜町1-10(セントラルビル2F)	(0566) 23-1056	(0566) 23-1196
(株)帝国建設コンサルタント	〒500-8881 岐阜市青柳町2-10	(058) 251-2176	(058) 253-6512
(株)東海建設コンサルタント	〒410-0811 静岡県沼津市中瀬町5-1	(055) 931-0625	(055) 932-7170
東京エンジニアリング(株)	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-33(有楽ビル7F)	(052) 962-3721	(052) 957-2848
(株)東京建設コンサルタント	〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-20-25(丸の内STビル4F)	(052) 222-2771	(052) 222-2776
(株)東光コンサルタンツ	〒460-0008 名古屋市中区栄 1-25-14(ゲストハウスレインボー802)	(052) 232-2711	(052) 232-2712
(株)東日	〒410-0022 静岡県沼津市大岡 2240-3	(055) 921-8053	(055) 924-8122
(株)トーニチコンサルタント	〒460-0008 名古屋市中区栄 4-6-15(フォーティンヒルズセンタービル)	(052) 262-4535	(052) 241-1815
東洋技研コンサルタント(株)	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-6-10(スズワンビル6F)	(052) 221-6979	(052) 211-2490
中日本建設コンサルタント(株)	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-8-6(ストークビル名古屋)	(052) 232-6032	(052) 221-7827
南海カツマ(株)	〒514-0008 三重県津市上浜町5-64-6	(059) 226-4854	(059) 226-9653
(株)日建技術コンサルタント	〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-14-32(丸の内三丁目ビル)	(052) 212-3490	(052) 212-3911
(株)日建設計	〒460-0008 名古屋市中区栄4-15-32(日建住生ビル)	(052) 261-6131	(052) 263-7295
(株)日建設計シビル	〒460-0008 名古屋市中区栄4-15-32(日建住生ビル)	(052) 261-0815	(052) 261-6370
日本技研(株)	〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-16-10	(052) 261-1321	(052) 261-1655
日本技術開発(株)	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2(日本生命笹島ビル14F)	(052) 533-1601	(052) 533-1606
日本建設コンサルタント(株)	〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-12(AREXビル)	(052) 211-4884	(052) 221-6849
日本工営(株)	〒460-0008 名古屋市中区栄2-6-1(白川ビル別館2F)	(052) 220-2681	(052) 220-2684

会 社 名	所 在 地	電話番号	FAX番号
日本構造技術(株)	〒460-0012 名古屋市中区千代田2-6-2(松栄ビル3F)	(052) 241-6892	(052) 241-6894
(株)日本構造橋梁研究所	〒453-0015 名古屋市中村区椿町17-16(丸元ビル)	(052) 453-1776	(052) 453-2078
日本交通技術(株)	〒453-0014 名古屋市中村区則武1-10-6(側島ノリタケビル)	(052) 451-9111	(052) 451-9114
(株)日本港湾コンサルタント	〒460-0008 名古屋市中区栄1-29-29(シモン10栄ビル4F)	(052) 229-8186	(052) 229-8187
日本シビックコンサルタント(株)	〒453-0014 名古屋市中村区則武2-6-17(名駅フォーレ803)	(052) 459-1115	(052) 459-1116
日本振興(株)	〒450-0002 名古屋市中村区名駅 5-38-5(ウインビル4F)	(052) 562-1191	(052) 562-1192
(株)日本水工コンサルタント	〒453-0016 名古屋市中村区竹橋町5-10(オイセタウンビル7F)	(052) 451-2391	(052) 451-2397
(株)ニュージェック	〒460-0003 名古屋市中区錦1-6-17(オリジン錦ビル)	(052) 203-5281	(052) 203-5282
(株)ハイウエイ・エンジニアリング	〒460-0008 名古屋市中区栄1-7-33(サカエセンタービル)	(052) 232-1891	(052) 232-1804
パシフィックコンサルタンツ(株)	〒451-0046 名古屋市西区牛島町2-5(トミタビル)	(052) 589-3111	(052) 561-6882
(株)パスコ	〒461-0025 名古屋市中区錦2-2-13(名古屋センタービル10F)	(052) 239-5130	(052) 239-5131
富士エンジニアリング(株)	〒464-0067 名古屋市千種区池下 1-11-21(ファースト池下ビル5F)	(052) 763-1616	(052) 763-1675
(株)復建エンジニアリング	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-6-38(錦エムワンビル5F)	(052) 203-0651	(052) 201-6578
復建調査設計(株)	〒461-0004 名古屋市東区葵 2-12-1(ナカノビル4F)	(052) 931-5222	(052) 937-0465
(株)ブレック研究所	〒460-0008 名古屋市中区錦 1-8-18(錦ハーモニービル3F)	(052) 222-1161	(052) 222-1261
(株)間瀬コンサルタント	〒460-0003 名古屋市中区錦 1-7-34(ステージ錦Iビル5F)	(052) 211-2322	(052) 211-5578
丸栄調査設計(株)	〒515-0812 三重県松阪市船江町1528-2	(0598) 51-3786	(0598) 51-9157
(株)三重新成コンサルタント	〒515-3133 三重県一志郡白山町大字南家城623-1	(059) 262-2038	(059) 262-5305
三井共同建設コンサルタント(株)	〒464-0850 名古屋市千種区今池 5-24-32(今池ゼネラルビル5F)	(052) 735-4660	(052) 735-4663
(株)名光コンサルタント	〒509-0238 岐阜県可児市大森685-2	(0574) 63-1788	(0574) 63-2266
明治コンサルタント(株)	〒465-0026 名古屋市名東区藤森 2-273	(052) 772-9931	(052) 772-9932
(株)メイホーエンジニアリング	〒503-0015 岐阜県大垣市林町 2-61-2	(0584) 74-7918	(0584) 74-7928
(株)名邦テクノ	〒457-0048 名古屋市南区大磯通 6-9-2	(052) 823-7111	(052) 823-7110
八千代エンジニアリング(株)	〒460-0003 名古屋市中区錦 3-10-33(錦SISビル)	(052) 232-2301	(052) 232-2303
山岡測量設計(株)	〒518-0828 三重県上野市平野中川原587-1	(0595) 21-9357	(0595) 21-4027
(株)ユニオン	〒501-0106 岐阜県岐阜市西河渡 2-57	(058) 253-3111	(058) 253-3644
(株)若鈴	〒514-0006 三重県津市広明町 345-1(若鈴ビル)	(059) 226-4101	(059) 224-4720
若鈴コンサルタンツ(株)	〒452-0807 名古屋市西区歌里町349	(052) 501-1361	(052) 502-1628

社団法人 建設コンサルタンツ協会本部・支部一覧表

本部・支部名	所在地	電話番号
本部	〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6(相互麹町第2ビル6F)	(03)3239-7992
北海道支部	〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1 北海道開発コンサルタント(株)内	(011)801-1596
東北支部	〒980-0802 仙台市青葉区二日町16-20(二日町ホームプラザビル3F)	(022)263-6820
関東支部	〒160-0012 東京都新宿区南元町8(多士ビル5F)	(03)3357-4195
北陸支部	〒950-0965 新潟市新光町6-1(興和ビル7F)	(025)282-3370
中部支部	〒460-0003 名古屋市中区錦3-7-26(森ビル5F)	(052)953-6361
近畿支部	〒540-0005 大阪市中央区上町A番12号(建設保証ビル6F)	(06)6764-5891
中国支部	〒730-0013 広島市中区八丁堀1-8(エイトビル8F)	(082)227-1593
四国支部	〒760-0066 高松市福岡町3-11-22(建設クリエイティブビル4F)	(087)851-5881
九州支部	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-13-9(住友生命博多駅東ビル8F)	(092)434-4340



事務局だより

◎平成17年度臨時総会の開催

平成17年度中部支部の臨時総会を10月27日(木)名古屋ガーデンパレスで開催しました。当日はご多忙中にもかかわらず、会員100社の方々にご出席をいただき、誠にありがとうございました。議事は、支部の「補正収支予算(案)」及び「役員補選(案)」を中心に審議が進められ、審議の結果、原案どおり承認可決されました。支部の活動報告では、「名古屋打ち水大作戦」への参加等「中期行動計画」に沿った対外活動が主流となっていることなどが報告され、盛会のうちに無事終了しました。

新しく役員に選出されました方々は、次のとおりであります。



支 部 役 職 名	氏 名	会 社 名
副 支 部 長	田部井伸夫	玉野総合コンサルタント(株)
副 支 部 長	市橋 博司	大日コンサルタント(株)
理 事(総務部会長)	小島 裕二	中央コンサルタンツ(株)
理 事(対外活動部会長)	伊藤 雅士	(株)東京建設コンサルタント
理 事(都市計画専門部会長)	山北 泰典	パシフィックコンサルタンツ(株)

◎独占禁止法遵守講習会の開催

独占禁止法遵守に関する講習会を10月27日（木）名古屋ガーデンパレスで開催しました。（財）建設業適正取引推進機構から専門の講師をお迎えし、改正法のあらましと最近の運用状況等の講義がありました。当日は、ご多忙のところ75社99人の方にご出席いただきありがとうございました。



◎RCCM資格試験の実施

平成17年度RCCM資格試験が、11月13日（日）名古屋会場（名城大学天白校舎）で実施されました。今年度は受験者が前年度より少し減少し約700名が受験されました。

皆さんもご承知のように、RCCM資格取得者は、建設コンサルタント業務に関する技術上の事項を処理し、また、業務成果品の照査の任にあたる「管理技術者」、「照査技術者」として重要な位置にあります。

事務局では、今後もできるだけ多くの方々が受験し、優秀な技術者が育つようできる限りのお手伝いをさせていただきます。

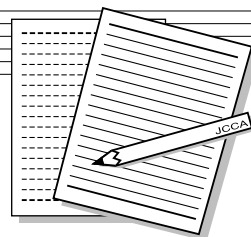
◎防災演習の実施

平成17年度の防災演習が9月1日（木）に実施されました。今年度は、名古屋市南部地域が震源地という想定で、本部の「防災演習実施基本方針」に基づき、中部支部災害対策現地本部を設置して、本部・各支部及び会員との間で情報伝達、支援要請等の訓練を実施しました。会員各社におかれましてはご協力をいただき、ありがとうございました。お蔭様で無事終了することができました。

また、中部地方整備局とは「災害時の緊急の災害対応支援協定」に基づき、早朝から情報伝達訓練を実施しました。こちらも順調に進行しました。



編集後記



今回も無事【図夢in中部】第17号を発刊することが出来ましたことは、ご執筆下さいました皆様のお陰と心より感謝いたしております。

本号のテーマ「私たちが学んだ「愛・地球博」」では、多くのことが学べたと思われま

人間社会を取り巻く自然環境の大切さ、地球環境を破壊する公害の恐ろしさなど、多くのことを教えてくれた万博「愛・地球博」でした。

しかし、未来を見据えた新しい未来社会の出現にも目をみはるものが多く、i-unit/I-footや歩行ロボットには驚かされるばかりでした。

人間の偉大さもまだまだ捨てたものじゃない気がします。

21世紀最初の「愛・地球博」で学んだことを、子供たちと共にずうーっと守って行きたい!

最後に、これからも【図夢in中部】をご愛読頂きますようお願いいたします。そして、ご意見・ご感想を頂けますよう宜しくお願いします。

(T・M)

編集【広報部会編集委員会】

部会長 石川 高史 <セントラルコンサルタント株>
副部長 廣瀬 博 <株大建コンサルタント>
編集委員長 佐藤 脩 <中日本建設コンサルタント株>
編集副委員長 岩橋 英雄 <セントラルコンサルタント株>
委員 赤松 智樹 <八千代エンジニアリング株>
委員 中村 卓生 <株トーニチコンサルタント>

委員 森 栄司 <株ニュージェック>
委員 水野 努 <株オリエンタルコンサルタンツ>
委員 小林 岳彦 <株帝国建設コンサルタント>
委員 川村 勉 <株千代田コンサルタント>
委員 児玉 直人 <ジェイアール東海コンサルタンツ株>
委員 平田 真規 <中央コンサルタンツ株>

次号の投稿内容および投稿先

■投稿内容

ジャンル・テーマは自由

※採用の場合は薄謝進呈いたします。

■投稿方法

- ・メール (CCAI-NET)
- ・フロッピーディスク (一太郎・Word)
- ・FAX ・郵送

■投稿先

(社)建設コンサルタンツ協会 中部支部 編集委員会
名古屋市中区錦3-7-26 (森ビル5F)

TEL.052-953-6361 FAX.052-953-6362

URL <http://www.ccainet.org/> E-mail info@ccainet.org

■お問い合わせ先 同 上